

第3章 川崎遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

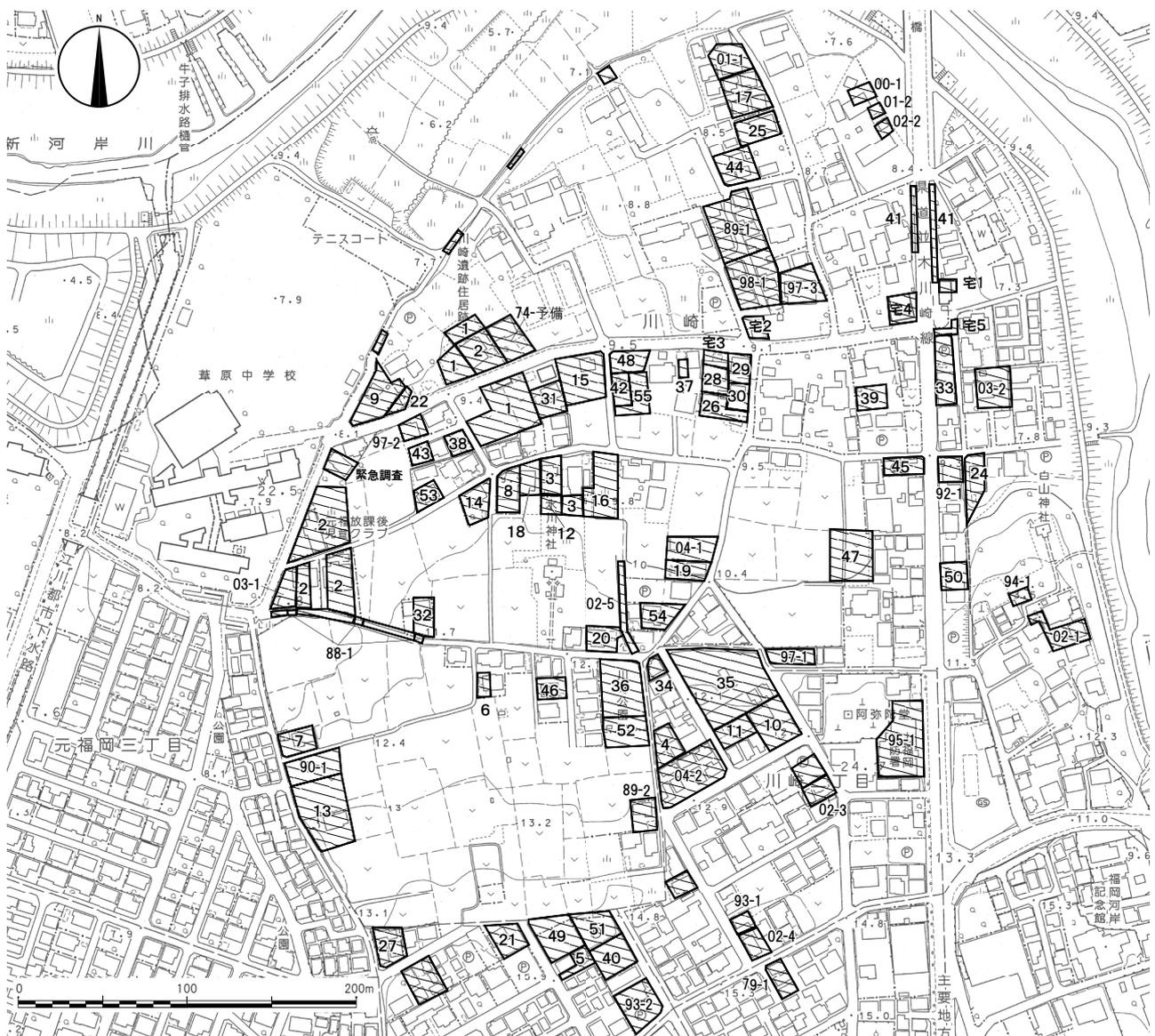
川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正6)年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928(昭和3)年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2020年4月現在88ヶ所で調査を行っている。

主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑、縄文時代と中世以降の貝塚等である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第8図 川崎遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第11表 川崎遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ()は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
74- 予備	川崎 160	(1974.3.25 ~ 4.4)	84		事前調査	炉穴、土坑、ビット、縄文土器等		上遺調
1次	川崎 162 ~ 176	1974.7.20 ~ 9.19	1,800		事前調査	縄文時代住居跡3、古墳時代住居跡1、古代住居跡7、焼土、集石、土坑、堀跡、溝、井戸、地下式坑、縄文土器、土師器等		川崎1次
緊急調査 宅1	大字川崎字宮後 168-3 大字川崎字宅地添 122	1975.3.30 ~ 5.10 1975.6.8 ~ 29	198 50		個人住宅 個人住宅	溝、縄文土器等 縄文時代住居跡1、貝塚、縄文土器等	宅地添1次A地区	上遺調
2次	川崎 137 ~ 174	1975.9.4 ~ 12.5	3,055		事前調査	縄文時代住居跡9、古墳時代住居跡6、古代住居跡10、炉穴、土坑、ビット、堀跡、溝、井戸、縄文土器、土師器、等		川崎2次
3次	川崎 149-6	1977.11.1 ~ 12.3	300		宅地造成	縄文時代住居跡2、古代住居跡6、柱穴、溝、縄文土器、土師器等		川崎3次
宅2	川崎 198	1978.5.15 ~ 25	170		宅地造成	土坑、ビット、遺物なし	宅地添2次B地区	上埋I
宅3	川崎 230	1978.5.23 ~ 31	130		宅地造成	井戸、溝、地下式坑、遺物なし	宅地添3次C地区	上埋I
4次	川崎 2-5-2	1979.4.19 ~ 5.11	304		宅地造成	縄文時代住居跡1、ビット、溝、縄文土器等		上埋II・IV
5次	川崎 1-1-4	1979.9.26 ~ 10.10	152		宅地造成	溝状遺構、遺物なし		上埋II
79-1	清見 4-3-11	(1979.11.12 ~ 19)	260		宅地造成	溝、縄文土器		上埋II
6次	川崎 102-5	1979.12.3 ~ 8	30		プレハブ家屋	縄文時代住居跡2、古代住居跡2、縄文土器、須恵器等		上埋II
7次	川崎宮前	1981.11.27 ~ 30	316		個人住宅	遺構なし、平安土器		上埋IV
8次	大字川崎字宮脇 148-1	1984.1.17 ~ 26	400		住宅建設	溝、縄文土器		上埋VI
宅4	川崎宅地添 219-2・3	1984.9.25 ~ 10.9	301		住宅建設	縄文時代住居跡1、古代住居跡1、縄文土器、須恵器等		上埋VII
9次	川崎字宮後口 172-1・2	1986.9.11 ~ 20	495		個人住宅	溝、縄文土器等		上埋IX
10次	川崎 224-1	1987.11.24 ~ 30	603		個人住宅	溝、石斧		上埋X
11次	川崎 2-6-2	1988.5.10 ~ 17	289		住宅建設	遺構遺物なし		上埋11
88-1	市道 402 号線	(1988.9.19 ~ 21)	60		下水道設置	遺構遺物なし		上埋11
89-1	川崎字宅地添 196-1	(1989.4.10 ~ 18)	1,045		住宅建設	遺構遺物なし		上埋12
89-2	川崎字宮前 98-2	(1989.10.3 ~ 6)	264		住宅建設	遺構遺物なし		上埋12
12次	川崎字宮脇 149-4・5	1990.4.20 ~ 27	311		住宅建設	溝、遺物なし		上埋13
13次	川崎字宮前 122	1990.5.1 ~ 17	480		住宅建設	古代住居跡1、土師器		上埋13
90-1	川崎字宮前 122	(1990.5.18 ~ 23)	530		範囲確認	遺構遺物なし		上埋13
14次	川崎字宮脇 145-2	1990.10.1 ~ 31	499		個人住宅	縄文時代住居跡1、古代住居跡1、貝塚、須恵器等		上埋13
15次	川崎字宮後口 160-1	1991.10.23 ~ 11.20	499		個人住宅	古代住居跡7、土坑、緑釉陶器、墨書土器、石製紡錘車等		上埋14
92-1	川崎字山向 9-5	(1993.2.18 ~ 19)	168		店舗併用住宅	遺構遺物なし		上埋15
93-1	川崎 2-2-10・11	(1993.8.24)	131		個人住宅	遺構遺物なし		上埋16
93-2	川崎 1-1-1の一部	(1993.9.10 ~ 13)	422		共同住宅	遺構遺物なし		上埋16
94-1	川崎字台 258 外1筆	(1994.11.17 ~ 24)	230		機材置場	遺構遺物なし		上埋17
95-1	川崎 2-7-2・3	(1995.10.13 ~ 16)	1,126		消防署	遺構遺物なし		上埋18
16次	川崎字宮脇 150-2・3	(1995.12.4 ~ 8) 1995.12.11 ~ 1996.3.8	828		駐車場 資材置場	縄文時代住居跡3、古代住居跡4、古代掘立柱建物跡6、竪穴状遺構、土坑、井戸、縄文土器		H7 上社、上埋 18、 説明会資料「私たちの埋蔵文化財」
17次	川崎字宅地添 204 の一部	(1996.7.8 ~ 12) 1996.7.15 ~ 23	779	(779) 130	宅地造成 個人住宅	古代住居跡1、墨書土器、須恵器等		上埋 19
18次	川崎字宮脇 148-3	(1996.11.11 ~ 12) 1996.11.18 ~ 25	198		個人住宅	古代住居跡3、土師器等		上埋 19
97-1	川崎字山向 21	(1997.4.14)	367		宅地造成	溝、遺物なし		上埋 20
97-2	川崎字宮後口 165-6	(1997.10.20)	204		個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋 20
97-3	川崎字宅地添 199-1・2・5	(1998.2.12 ~ 16)	780		個人住宅	遺構遺物なし		H9 上社
98-1	川崎字宅地添 197-1	(1998.10.27 ~ 11.6)	996		宅地造成	土坑、縄文土器等		上埋 21
市道 402 号線 2次	川崎字宮前、宮脇地内	2000.2.21 ~ 25	496		道路敷設	縄文時代住居跡1		H11 上社
00-1	川崎字宅地添 209 の一部	(2000.6.19 ~ 22)	123.3		個人住宅	遺構なし、貝殻、縄文土器等		上埋 23
01-2	川崎字宅地添 209 の一部	(2001.6.12 ~ 25)	100		車庫	溝、土坑、縄文土器等		上埋 24
19次	川崎字宮脇 157 の一部	2001.9.18 ~ 10.4	289		個人住宅	古代住居跡1、土坑、土師器等		上埋 24
01-1	川崎字宅地添 204-1	(2001.10.29 ~ 30)	825		宅地造成	遺構なし、縄文土器片等		上埋 24
02-1	川崎 249-1 の一部	(2002.5.13)	341		倉庫	遺構なし、縄文土器等		上埋 25
02-2	川崎 210-1・2 の一部	(2002.10.28 ~ 29)	551		共同住宅	溝		H14 上社
02-3	川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228		個人住宅	遺構遺物なし		H14 上社
02-4	川崎 2-2-12	(2003.3.13)	165		個人住宅	遺構遺物なし		H14 上社
02-5	川崎字宮脇 155 先	(2003.3.26)	164		市道 401 号線	遺構遺物なし		H14 上社

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ()は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
03-1	川崎 137-1 の一部	(2003.8.6・7)	257		個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋 26
03-2	川崎字宅地添 226-16	(2003.12.8・19)	381		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 26
宅 5	川崎字宅地添 222-3 先	2004.2.16～18	88		市道 381 号線	古墳時代住居跡 1、壺型土器		H15 上社
04-1	川崎字宮脇 157-1 の一部	(2004.6.14・15)	421		個人住宅	竈、土師器等		上埋 27
04-2	川崎 2-5-1	(2004.11.1～4)	881		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 27
20 次	川崎字宮脇 153-5	(2005.11.22～27) 2005.11.28～12.2	257		個人住宅	古墳時代住居跡 1、土師器		市内 1
21	川崎 1-6-10 の一部	(2006.4.11) 2006.4.14～20	298	(124)	個人住宅	古代住居跡 1、溝、縄文土器等		市内 3
22	川崎 171-1、174-10	(2007.4.16～23) 2007.4.24～5.22	104	(104) 104	消防分団車庫	炉穴、土坑、溝、地下式坑、穴蔵、墨書土器、瓦塔、花瓶等		市内 4
24	川崎字宅地添 225-3	(2007.10.4)	319	(26)	共同住宅	溝、土師器片		市内 4
25	川崎字宅地添 203-1 の一部、203-3 の一部	(2008.4.14) 2008.4.15～17	1,033	(55)	個人住宅	古代掘立柱建物跡 1、土坑、ピット、溝、地下室、灰釉陶器、縄文土器等		市内 6
26	川崎字宅地添 230-5	(2008.4.21) 2008.4.22～5.17	228		個人住宅	古代住居跡 4、土坑、ピット、井戸、墨書土器等		市内 6
27	川崎 1-7-1	(2008.5.15～21)	350	(112)	分譲住宅	土坑、溝、縄文土器等		市内 6
28	川崎字宅地添 230-7	(2008.7.4～9) 2008.7.10～8.8	434	(160)	個人住宅	古代住居跡 3、土坑、溝、土師器等		市内 6
29	川崎字宅地添 230-1	(2008.7.9～11) 2008.7.14～8.22	203	(108)	個人住宅	古代住居跡 2、土坑、ピット、溝、墨書土器、土師器等		市内 6
30	川崎字宅地添 230-6	(2008.7.17) 2008.7.18～9.5	200		個人住宅	古代住居跡 4、土坑、ピット、溝、井戸、灰釉陶器、墨書土器等		市内 6
31	川崎字宮後 161-1・5・6	(2009.10.28) 2009.10.28～11.27	304	(103)	個人住宅	縄文時代住居跡 2、古代住居跡 2、ピット、縄文土器、須恵器等		市内 8
32	川崎字宮脇 140 の一部	(2011.2.24～3.2) 2011.3.4～25	396	(166.5)	個人住宅	古代住居跡 3、土坑、ピット、須恵器等		市内 10
33	川崎字宅地添 226-5	(2011.4.14～21)	438	(135)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 14
34	川崎 2-5-4	(2011.7.25～26)	117.8	(23)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 14
35	川崎 2-6-4～7・9	(2011.9.27～11.24)	1,924	(668)	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、土坑、ピット、溝、縄文土器、須恵器等		市内 14
36	川崎字宮前 100-1	(2011.12.15～26) 2012.1.10～17	1,096	(439) 22	公園整備	古代住居跡 6、土坑、ピット、墨書土器、須恵器等		市内 14
37	川崎字宅地添 232-1	(2012.9.3)	1,298	(15)	個人住宅	遺構なし、須恵器		市内 15
38	川崎字宮後 165-3	(2013.2.25) 2013.2.26・27	176	(25) 5	個人住宅	焼土、ピット、縄文土器等		市内 15
39	川崎字宅地添 227-1	(2013.3.4・5)	1,121.33	(34)	個人住宅	遺構なし、縄文土器等		市内 15
40	川崎 1-1-7	(2013.10.11～17)	447	(172.5)	共同住宅	遺構なし、陶器		市内 18
41	川崎 218-1 他	2014.8.1～10.31	419		道路	縄文時代住居跡 3、古代住居跡 3、炉穴、土坑、ピット、溝、畝跡、縄文土器、須恵器等		県埋文 420
42	川崎字宅地添 233-3	(2015.6.26・7.2)	200	(39)	集会所	古代住居跡 1、土師器等		市内 22
43	川崎字宮後 165-5・8・9	(2015.6.26)	175.21	(20)	個人住宅	焼土、縄文土器		市内 22
44	川崎字宅地添 202-1・8	(2015.11.24～12.10) 2016.1.5～20	273.56	(124)	分譲住宅	縄文時代住居跡 2、古代住居跡 1、貝塚、土坑、ピット、溝、地下式坑、縄文土器、須恵器等		市内 19
45	川崎字山向 8-4、7-7・8	(2017.2.22～24)	254.72	(55.65)	個人住宅	溝、縄文土器等		市内 24
46	川崎字宮前 101-5、103-8	(2017.3.13)	199	(4)	個人住宅	掘り込み遺構、須恵器		市内 24
47	川崎字山向 15-1、16-1	(2017.12.19)	749	(5)	資材置場	遺構遺物なし		市内 24
48	川崎字宅地添 234-1	(2018.8.27～30)	266	(41)	個人住宅	縄文時代住居跡 1、ピット、溝状遺構、縄文土器等		市内 25
49	川崎 1-1-5	(2019.2.7・8)	509	(106.41)	分譲住宅	根切り溝、縄文土器等		市内 25
50	川崎字山向 10-4 の一部	(2014.9.8)	120	(20)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
51	川崎 1-1-6	(2019.5.8・9)	394	(97.14)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
52	川崎字宮前 99-1	(2019.5.22～24) 2019.5.28～6.19	635	(172.4) 82.5	個人住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、瓦片		市内 25
53	川崎字宮後 166-1・9～11	(2019.11.5・6)	212	(47.5)	分譲住宅	堀跡、縄文土器、陶磁器片		市内 25
54	川崎字宮脇 155-6	(2020.2.20・21)	313.62	(23.25)	個人住宅	遺構なし、泥面子		市内 25
55	川崎字宅地添 232-4、233-1 の各一部	(2020.3.16・17)	235	(22.35)	個人住宅	溝、須恵器片		市内 25



第9図 川崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)

V 川崎遺跡第 52 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 5 月 13 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 5 月 22 ～ 24 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5 ～ 2m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 50 cm である。調査の結果、縄文時代住居跡 1 軒、古代住居跡 1 軒を検出した。保護層の確保が難しいため原因者と再協議の結果、建物にかかる縄文時代住居跡について本調査を実施した。

本調査は 2019 年 5 月 28 日～ 6 月 19 日まで実施した。該当箇所を重機で拡張、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

川崎遺跡の縄文時代住居について

遺跡の範囲は 500 × 500 m 程度の広がりをもち北側の荒川低地に 500 m、幅 400 m 程舌状に突き出た立川面上に遺跡全体が位置する。地点貝塚である川崎貝塚が所在する台地先端は標高 8 m 程で南方に向かって高くなり、台地最南部の本調査地点の標高は現地表面で 13 m 代を測る。

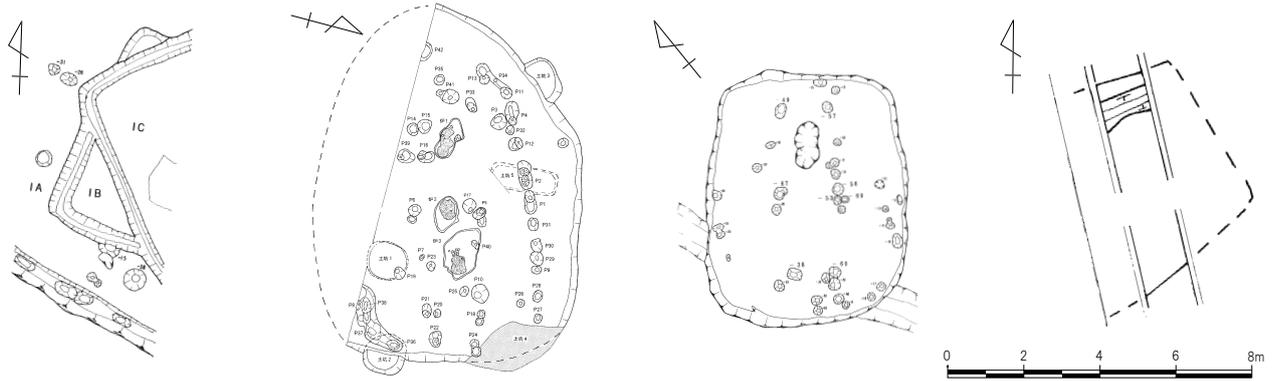
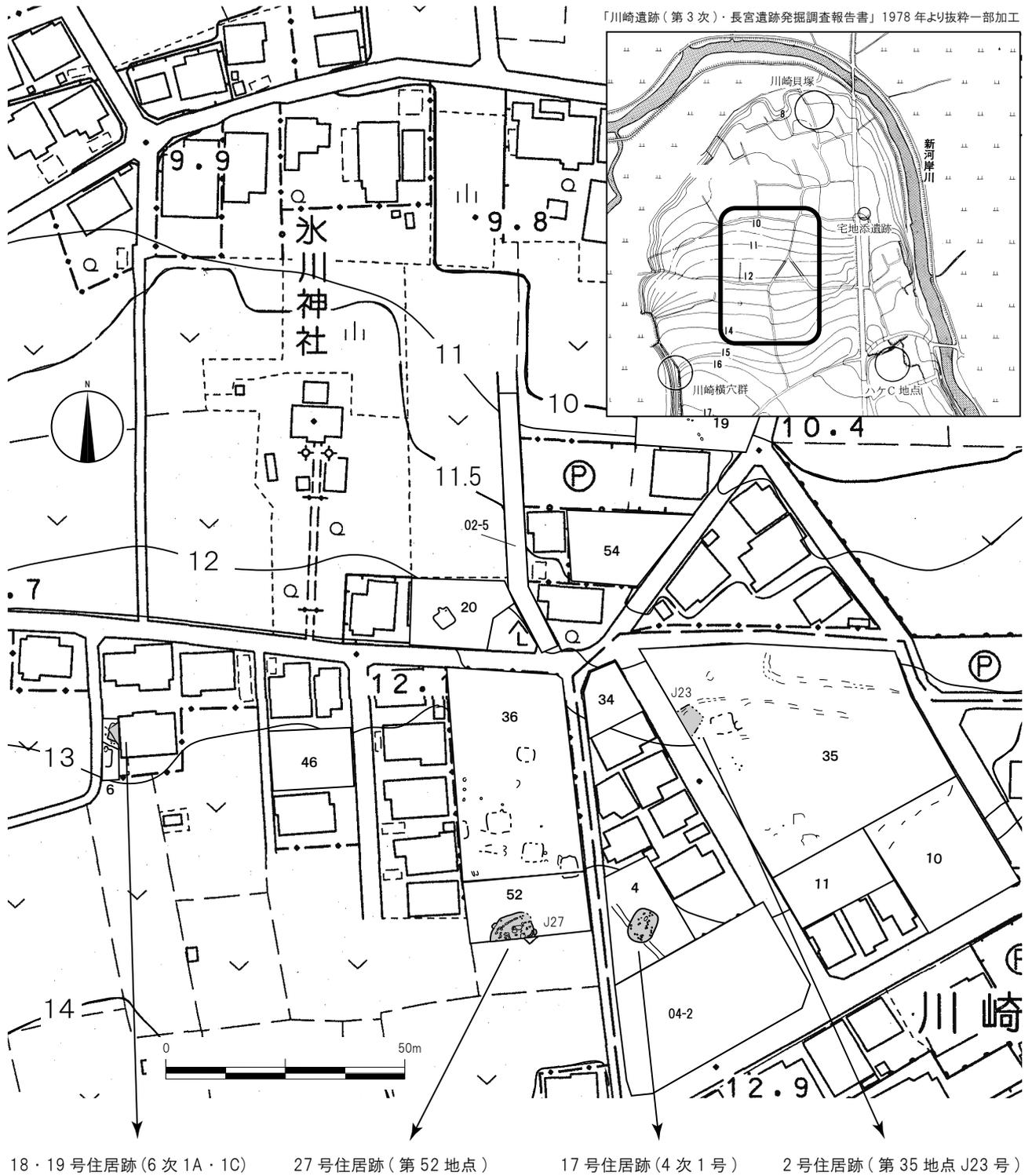
川崎遺跡は台地北西側で発掘調査が集中し、50 ヶ所以上での調査が進んできている(第 9 図)。これまでに縄文時代の住居跡は 35 軒が確認されている。早期の 1 軒、中期～後期の 3 軒以外の 31 軒は縄文時代前期前葉～中葉にかけての住居である。これら縄文時代の住居占地は、①台地の中央から北西側で 23 軒。②舌状先端部に近い北東部で 7 軒。③最も内陸側になる台地南中部で 5 軒である(第 15 図及び第 14 表)。17 号、27 号住居は台地先端の川崎貝塚から約 450 m、内陸に入った位置で確認された。

縄文時代前期の住居、とりわけ黒浜式期の住居は 15 軒を数え、市内遺跡でも上福岡貝塚遺跡の 17 軒に次いで多い。上福岡貝塚遺跡では環状集落の形成が認められ密度濃く分布し全ての住居跡で地点貝層が知られるのと比較して、川崎遺跡では関山・黒浜式期で小規模な貝層をもつのが各 1 軒あるのみで、さらに完掘された住居は 2 例のみで部分発掘、及び他時期遺構との重複が大半を占めている。そして住居の分布も散在的である。

第 16 図は川崎遺跡で調査された関山期及び黒浜期の内、完掘もしくは全容が把握できた調査 7 例を図示した。このなかで注目されるのは未報告ではあるが 34 号住居(第 16 次 7 号住居)である。古代の掘立柱建物跡 2 棟によって北東部を壊されてはいたが、長径 12 m、短径 8 m の長方形で床面積は 96 m² に及ぶ大形住居である。ちなみに 17 号住居の床面積 30.8 m² の 3 倍以上の面積をもつ。主柱は 6 本で深さは 0.9 m に及ぶ。炉は東西に 2 ヶ所確認され、空間を二分割して利用したと思われる。遺物は全て床面から浮き投棄された状態の出土であった。その量は復元土器で 40 数個体分、土器片はコンテナで約 90 箱分が出土した。

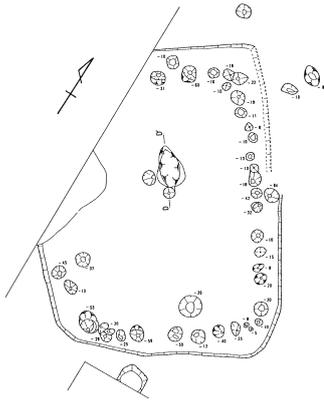
第14表 川崎遺跡縄文時代住居跡一覧表

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規 模	炉			埋 甕	拡張	周 溝	主軸方位	時 期	備 考	所収報告書	
						地 床	炉 体	石 囲								
1	1974	第1次 LN03	2/3	方形	430 × 380	○						N-16-E	諸磯 a		川崎1次、市史資Ⅰ	
2		第1次 LN19	2/3	長方形	— × 550	○				④	○	N-42-E	黒浜			
3		第1次 LN20	2/3	長方形	560 × 420	○					○	N-59-E	黒浜			
4	1975	第2次 LN70	1/2	隅丸長方形	— × 330								黒浜		川崎2次、市史資Ⅰ	
5		第2次 LN73		隅丸長方形	350 × 260	○						N-6-W	花積下層?			
6		第2次 LN74		隅丸方形	820 × 810	○						N-80-W	前期	LN73・74・76・		
7		第2次 LN76		不整形	390 × 290	○						N-10-E	前期	77の順で構築		
8		第2次 LN77		隅丸長方形		○							前期			
9		第2次 LN08	1/2	隅丸長方形	— × 570	○						N-88-E	関山			
10		第2次 LN34		不整形	520 × 480							N-15-W	黒浜?	H19住・LN35と重複		
11		第2次 LN35							未検出				前期	10J住・H19住と重複		
12	第2次 LN25	大部分	長方形	— × 450				未検出			N-68-W	関山	H24住と重複			
13	第2次 LN50	1/2以上	長方形	620 × 460	○						N-35-W	関山				
14	宅地添1次	完掘	不整形	390 × 410	○						N-22-W	早期未葉～ 前期初頭	貝層伴う	上遺調		
15	1977	第3次 J7		不明									花積下層	川崎3次、市史資Ⅰ		
16		第3次 J8		不整形									花積下層			
17	1979	第4次1号住居	完掘	隅丸長方形	645 × 505	○						N-36-E	黒浜		上埋Ⅱ・Ⅳ、 市史資Ⅰ	
18		第6次1A											黒浜	1B・1Cと重複		
19		第6次1C											黒浜	1A・1Cと重複		
20	1984	宅地添第4次2号住居	完掘	柄鏡形	円径3～4m	○						①	○	加曾利	上埋Ⅶ	
31	1990	第14次1号住居	完掘									N-52-E	関山Ⅰ	貝層を伴う	上埋13、市史資Ⅰ	
32	1995	第16次3号住居											黒浜	炉跡のみ	H7上社、説明会資料「私たちの埋蔵文化財」	
33		第16次4号住居											黒浜	炉跡のみ		
34		第16次7号住居	完掘	長方形	1200 × 800							N-45-E	黒浜	大型住居		
35	2000	市道402号線2次											関山		H11上社	
21	2009	第31地点J21号住居	75%	柄鏡形	(500) × 420								②	称名寺Ⅰ	市内8	
22		第31地点J22号住居	25%											○		加曾利EⅣ
23	2011	第35地点J23号住居	一部	台形か 長方形	520 × —									黒浜	未検出	市内14
24	2015	第44地点J24号住居	一部	円形か 方形		○								○	黒浜	H80住と重複
25		第44地点J25号住居	一部	円形か 隅丸方形										○	黒浜	地下式坑と重複
26	2018	第48地点	一部	円形か 隅丸方形										前期?		市内25
27	2019	第52地点	75%	隅丸長方形	940 × (600)	○						N-72-E	黒浜		市内25	
28	2014	第41地点2号住居		楕円形	(430 × 110)							N-0	黒浜		県埋文420	
29		第41地点4号住居		隅丸方形	(490 × 200)							N-7-E	関山	3号住と重複		
30		第41地点5号住居		方形	(370 × 350)							N-7-E	茅山上層	土坑・炉穴と重複		

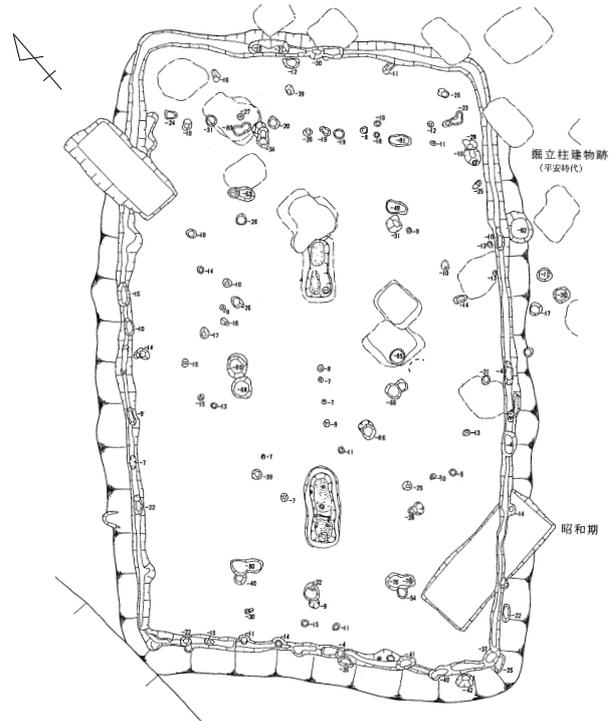


第15図 川崎遺跡台地最南部の縄文時代前期住居跡分布図(1/1,250)、住居跡(1/200)

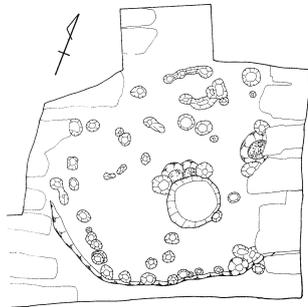
13号住居跡(第2次LN50)〈関山〉



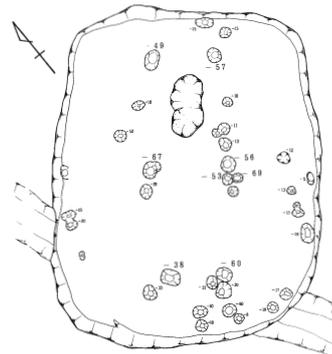
34号住居跡(第16次7号)〈黒浜〉



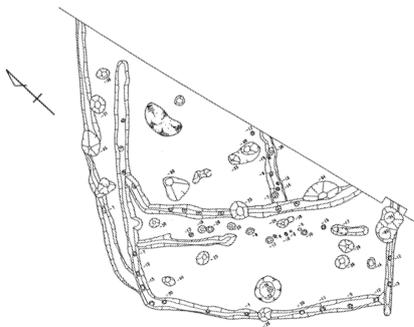
31号住居跡(第14次1号)〈関山〉



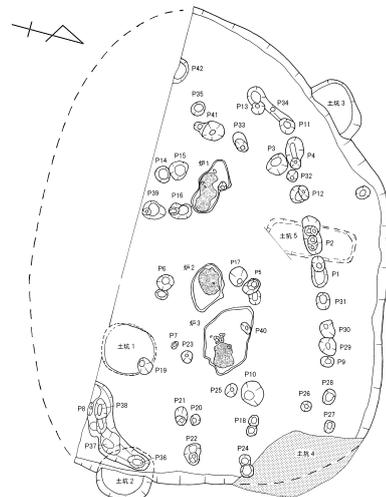
17号住居跡(第4次1号)〈黒浜〉



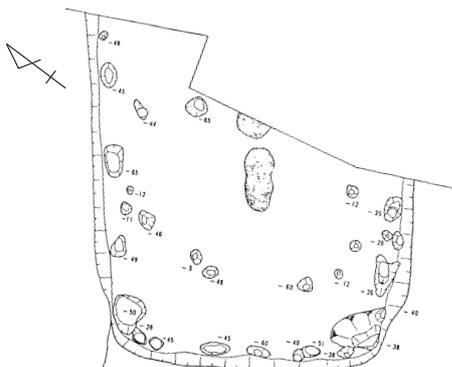
2号住居跡(第1次LN19)〈黒浜〉



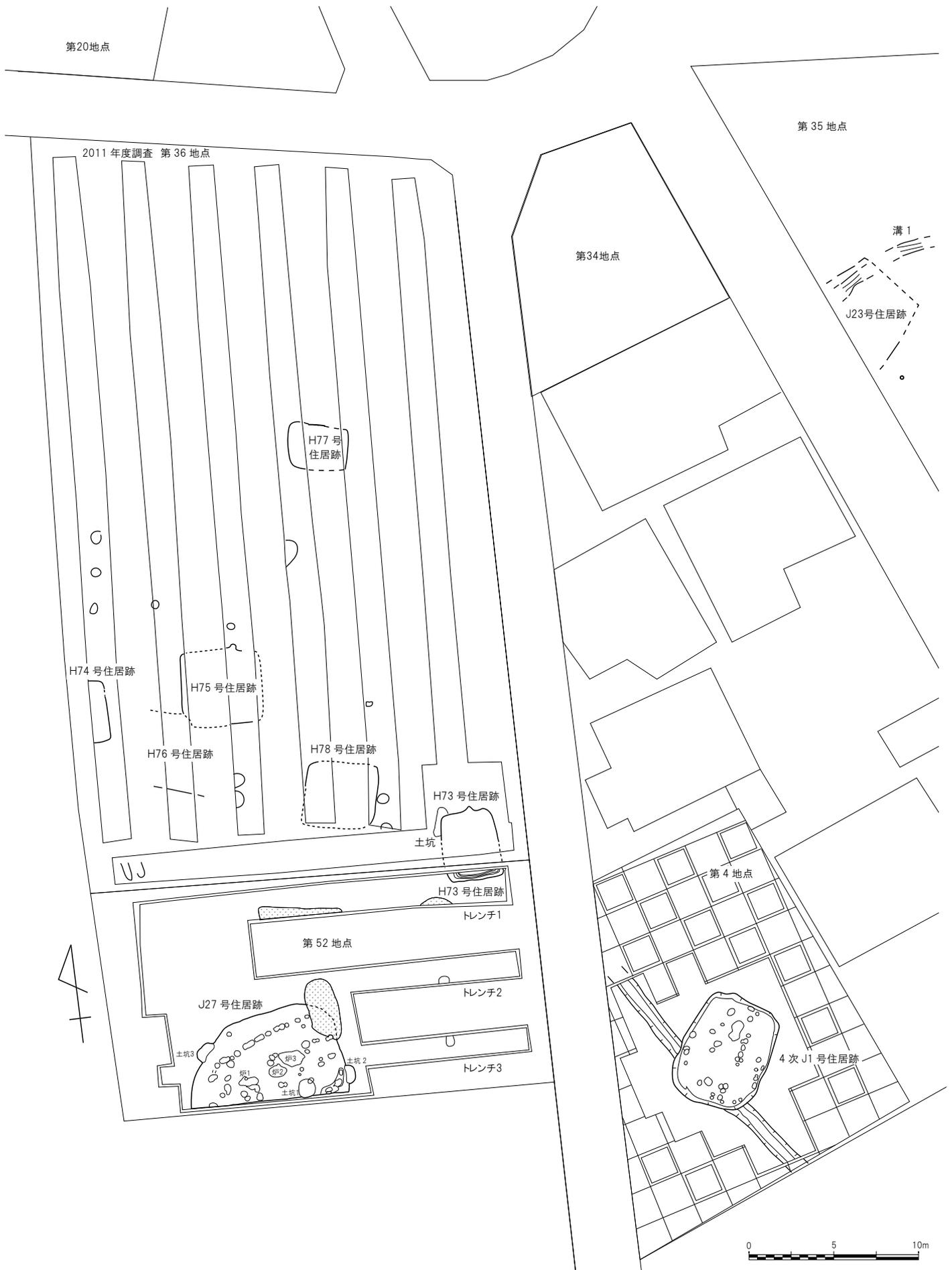
27号住居跡(第52地点)〈黒浜〉



3号住居跡(第1次LN20)〈黒浜〉



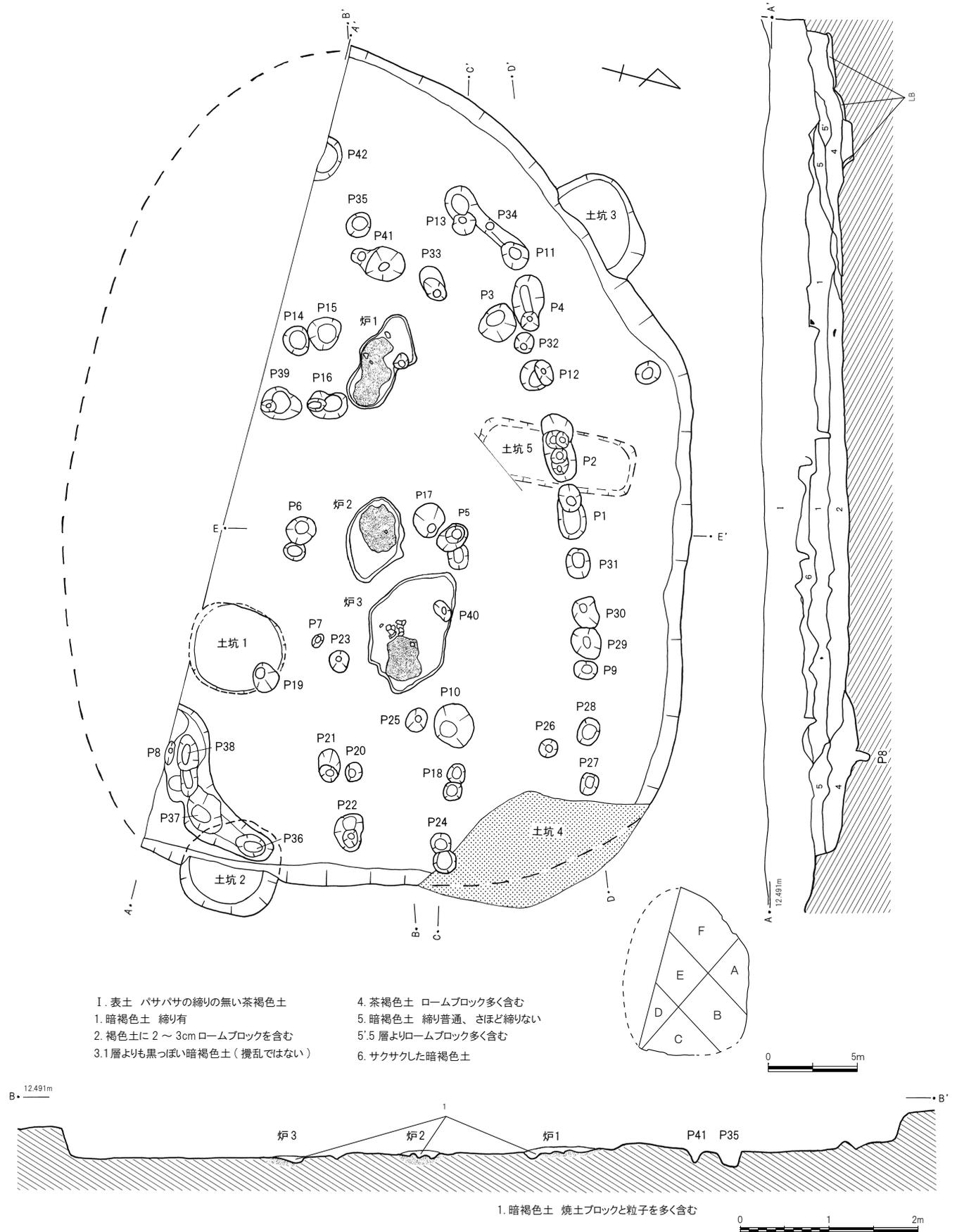
第16図 川崎遺跡で完掘に近い縄文前期(関山~黒浜期)住居跡(1/150)



第17図 川崎遺跡第52地点遺構配置図(1/300)

J27号住居跡 (第18～22図)

【位置】 J27号住居は、同じ黒浜期のJ17号住居(第4次1号住)と市道を挟んだ西側で19m余の間隔をおいた位置にある。最も内陸部に位置する。調査区の南西部から確認された。試掘調査時のトレンチ3(幅約1.5m)がほぼ中央を東西に縦断し、試掘段階で住居跡の可能性が伺われた。



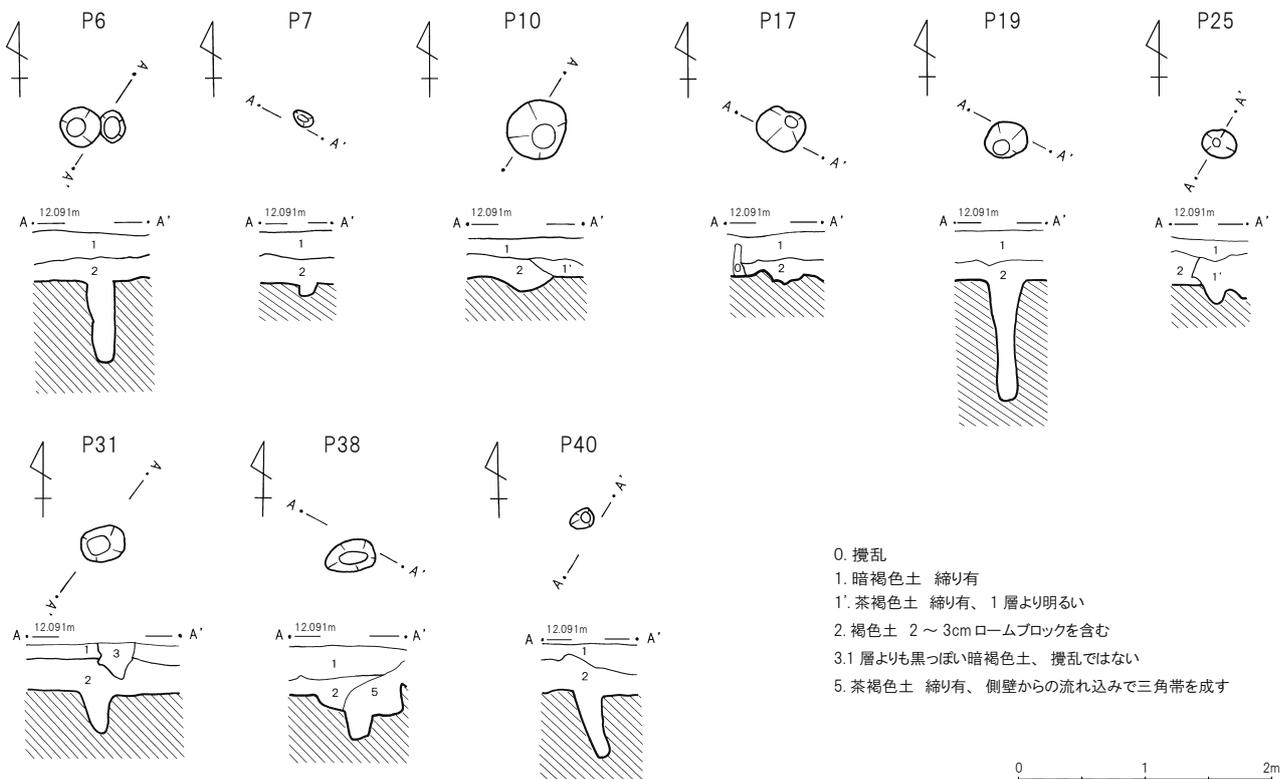
第18図 川崎遺跡第52地点J27号住居跡(1/60)

【形状と規模】 住居南西側は調査区域外にかかるが、住居全体の4分3以上の調査は得ることができた。南西隅がやや突き出たような不整の隅丸長方形のようである。長軸9 m 40 cm、短軸は推定で6 mを超える比較的大形の住居である。試掘調査から本調査に移行する際にプラン確認段階ではより高いレベルでの遺構確認に努めた。確認地山はソフトロームではなく暗褐色土である。プラン面で中近世以降と思われる土坑を5ヶ所確認した。特に北東側の土坑4(ゴミ穴)は3.8 × 1.9 mと規模も大きく、隅丸長方形部の北東コーナー壁面を壊すように入り込んでいた。併せて北側の壁面調査での地山は包含層との差が顕著でないため、明確な遺構形状の確認が困難で壁面の露出には苦慮した。結果として当初プランより一回り大きな規模の住居となった。

【覆土】 土層観察用のベルトは、プラン確認時での設定となり結果として必ずしも主軸に沿う設定ではなかったが、土層は自然な埋没状況の様相を示している。覆土の主体をなす層は上下2層からなり、比較的締まりの強い褐色土～暗褐色土で、細かいロームブロックを下層で含む。壁の立ち上がりは比較的急で、壁溝は確認されなかったが南東隅に長さ170 cm程の壁溝状のものを確認した。深さは10 cm程度。底面に3本のピット状のものが穿たれている。壁は緩いカーブをもち北側で45 cm前後と高く、平均30～35 cm程の高さで立ち上がる。主軸方位はN-75°-Eと西の方向をとっている。

【床面】 総じて中央部が平坦で硬く締まり良好に踏み固められ、周辺部は軟弱で壁際に向けて高まりを持つ。貼り床等は認められなかった。床面積は約55 m²であった。

【ピット】 床面からは、浅深合わせて40本以上のピットが確認された。これらのうちP5・P6・P18・P19の4本は支柱穴と考えられる。炉を通る主軸を中心にして左右対象に配列されているものと考えられる。深さは40 cmを越え円筒形態をとるようである。北側には主軸に平行するように16本のピットが連続する。主軸からは西で190 cm、東で205 cmほどの間隔があく。深さは25～30 cm前後である。また入口はピットの配列から東壁側に認められよう。

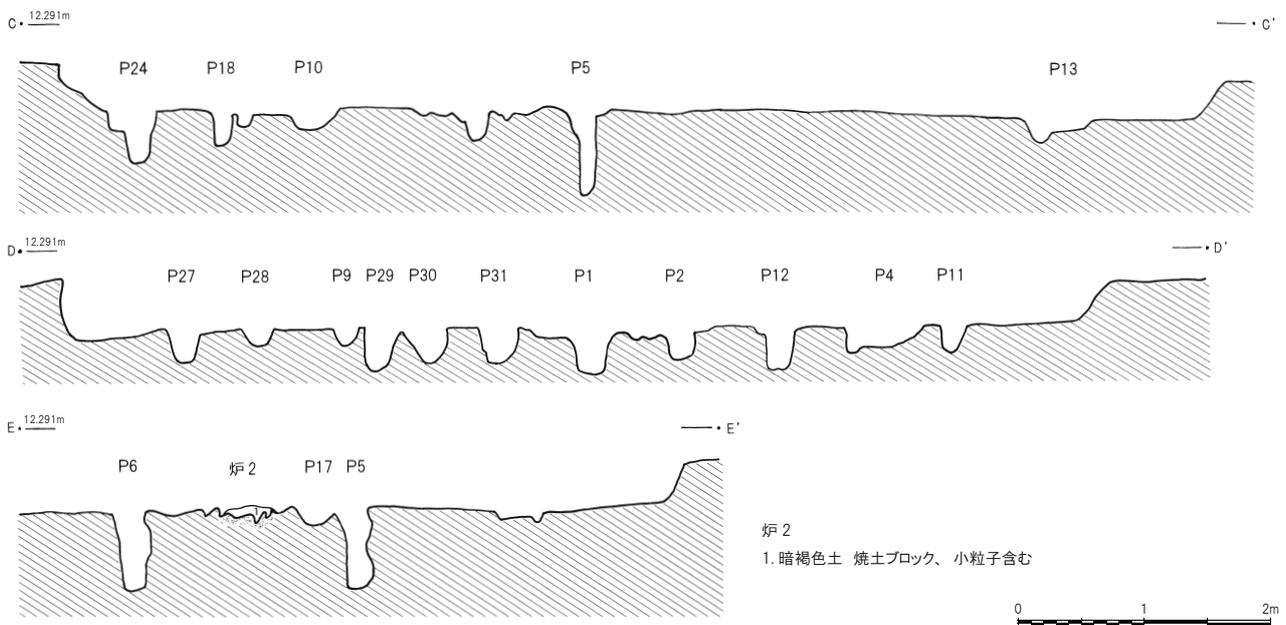


第19図 川崎遺跡第52地点J27号住居内ピット(1/60)

【炉】 床面上に3ヶ所の炉跡が存在した。すべて地床炉で3基の焼土跡は住居の主軸線上にあり、西から炉1・炉2・炉3とした。炉1は最奥壁寄りで長径118cm、短径45cm、深さ5～10cm掘り込んでいる不整楕円形。主軸方向はN-80°-Wを指す。焼土の範囲は80×30cmの不整楕円形で良好に焼けてバリバリの状態が確認できた。焼土は厚さ3cm程堆積し、底面のロームも全体的に過熱をうけていた。P40が脇から確認された。炉2は住居センターより100cm程南に位置し、炉1とは110cmの間をおく。長径100cm、短径60cm、深さ5～8cm掘り込んでいる不整楕円形。主軸方向はN-72°-Eを指す。焼土の範囲

第15表 川崎遺跡第52地点J27号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	隅丸方形	61×29	13×9	37.8	
2	隅丸方形	76×34	10×(7)	35.0	
3	円形	43×38	22×16	15.2	
4	楕円形	64×35	6×6	17.1	
5	楕円形	38×25	12×11	67.2	主柱穴
6	ひょうたん形	49×32	14×14	64.9	主柱穴
7	楕円形	16×11	8×4	11.4	
8	楕円形	26×9	5×4	20.4	
9	円形	24×21	11×9	15.3	
10	円形	49×45	20×17	17.0	
11	円形	30×28	16×13	21.8	
12	円形	37×33	6×4	36.0	
13	ひょうたん形	57×34	(24)×17	19.2	
14	円形	32×26	21×16	7.3	
15	円形	38×35	24×21	12.0	
16	ひょうたん形	47×32	13×8	34.4	
17	円形	36×33	11×8	10.5	
18	ひょうたん形	41×19	12×11	26.1	主柱穴
19	円形	32×29	12×12	94.0	主柱穴
20	円形	21×19	9×8	18.3	
21	楕円形	36×25	9×7	33.8	
22	楕円形	44×31	7×5	70.0	
23	円形	24×22	5×5	19.5	
24	ひょうたん形	46×25	13×13	41.8	
25	円形	28×23	8×6	16.8	
26	円形	20×19	10×7	20.1	
27	方形	24×19	12×9	24.4	
28	楕円形	31×22	14×14	27.0	
29	円形	34×33	12×8	27.2	
30	方形	36×27	10×8	26.2	
31	楕円形	34×26	17×13	26.7	
32	円形	23×20	7×6	43.4	
33	楕円形	41×26	7×7	33.1	
34	不明	16×—	8×7	27.2	
35	円形	29×26	16×15	18.2	
36	楕円形	32×20	19×11	24.8	
37	不明	(58)×38	25×15	34.1	
38	楕円形	40×24	23×8	29.8	
39	ひょうたん形	44×37	6×4	19.4	
40	円形	17×16	8×7	53.3	
41	ひょうたん形	61×37	12×8	14.3	
42	不明	51×(21)	34×(18)	13.9	



第20図 川崎遺跡第52地点J27号住居跡土層(1/60)

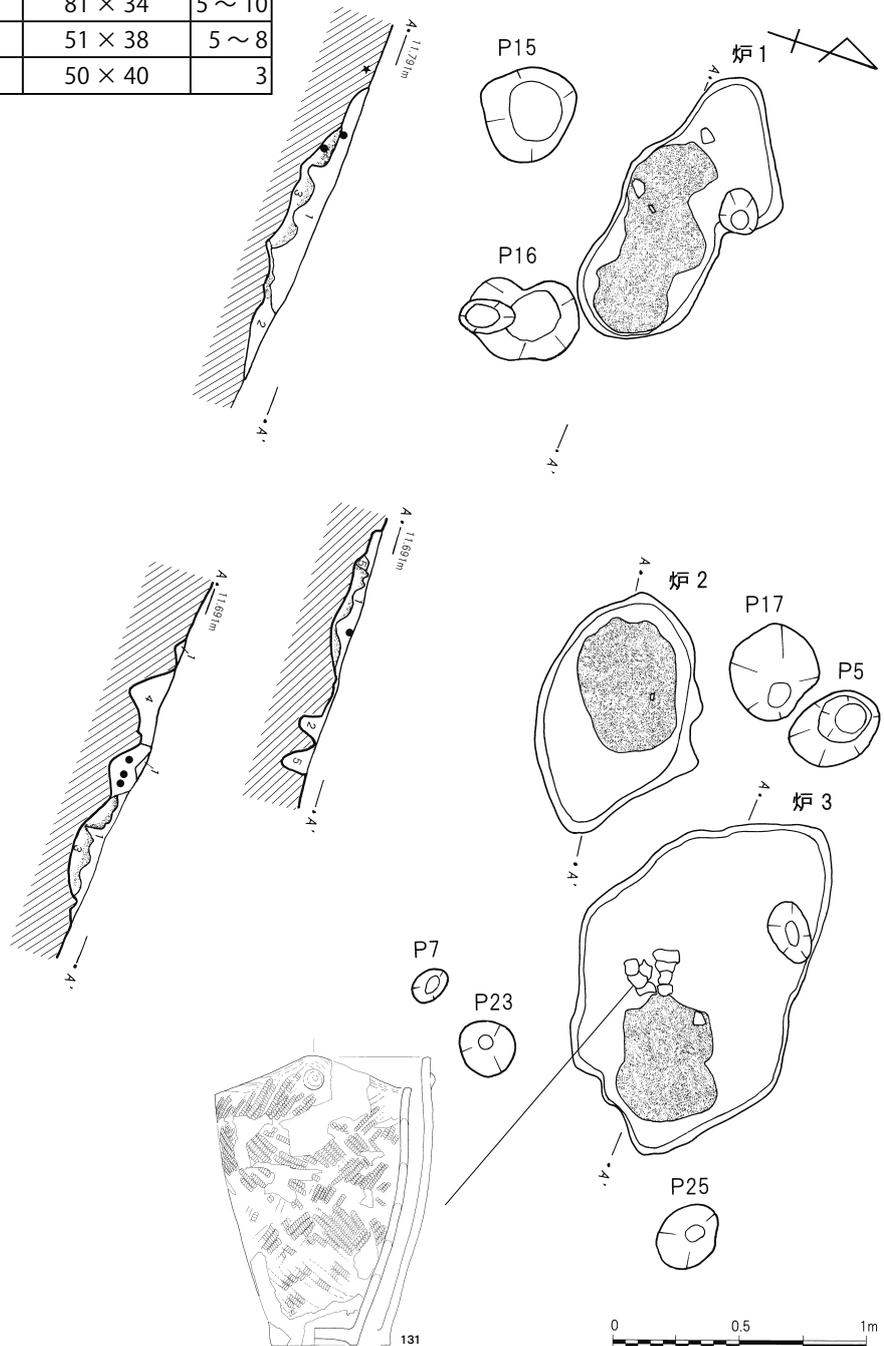
は55×40cmの楕円形をなす。焼土が良好に焼けてバリバリの状態が確認できた。焼土厚は3cm程堆積し、底面のロームも過熱をうけ凸凹をなす。炉3は炉2の20cm東側で近接する。長径150cm、短径90～98cm、深さは3cmと浅い。やはり不整楕円形を呈する。主軸方向はN-82°-Eを指す。焼土の範囲は51×35cmの楕円形をなし掘り込みの東側に偏る。焼土は良好に焼けて確認された。焼土厚は3cm程堆積し、底面のロームも過熱をうける。炉底より3cm程度の間層を挟みやや浮いた状態で比較的まとまった土器が出土した(第21図)。炉の新旧関係は不明。重複関係もないところから同時存在した可能性もある。

【遺物出土状況】 第22図の遺物の垂直分布図からも明らかのように、ブロック状にまとまった出土状況

第16表 川崎遺跡第52地点炉一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不整楕円形	118×45	81×34	5～10
2	不整楕円形	100×60	51×38	5～8
3	不整楕円形	150×90	50×40	3

- 1. 焼土ブロック・小粒子含む
- 2. 茶褐色土 ローム小ブロック含む
- 3. 茶褐色土 焼土ブロック塊を持つ
- 4. 茶褐色
- 5. 茶褐色土 ロームブロック大半持つ、
焼土ブロック塊を持つ
層厚は5cm



第21図 川崎遺跡第52地点J27号住居跡炉(1/30)

は少ない。床面上の薄い間層と側壁からの流れ込みで三角帯を形成する部分以外は、上層から中層まで小破片が遺構全体にほぼ万遍なく出土する傾向が見られた。壁面側からの遺物出土は少ない。遺物は、コンテナ(40 cm×30 cm×15 cm)に10箱、細片も含め約1200点余が出土した。主体は縄文時代前期中葉に属する土器がほとんど、他時期の遺物の混入は少なく縄文時代中期、土師器・須恵器片等が数点混入する程度。まとまった出土は炉3直上から出土した。所属時期は縄文時代前期中葉の黒浜式期と考えられる。出土遺物の大半は本遺構に伴うものではなく、住居廃絶後の廃棄等によるものであろう。



第22図 川崎遺跡第52地点J27号住居跡遺物出土状況(1/60)

J27 号住居跡出土遺物（第 23 図 1 ～ 265）

J27 号住居跡出土の縄文土器はすべて黒浜式土器で、いずれも繊維を含む。

1 は、波状口縁の深鉢型土器。口径 20.8 cm、器高 30.6 cm。口縁部の波状は向かい合いで大きな波が 2 単位、小さな波が 2 単位の 4 単位。大きな波の中部付近に一つの半球状の粘貼文が付く。施文は器面全体に単節縄文の羽状縄文が施される。

2 ～ 24 は、口縁部または口縁部文様帯の土器片。2 ～ 6 は、半截竹管による平行沈線。4 は、地文 LR。6 は、2 段の羽状縄文が地文。7 ～ 18 は、巾狭で疎らな爪形文を施す。7 ～ 13 は、波状口縁。14 ～ 18 は、口縁部文様帯。19 ～ 23 は、巾狭で爪形文がキャタピラ文状に狭い。24・25 は、やや巾広で爪形文がキャタピラ文状に狭い。

26 ～ 201 は胴部片。26・27 は、Lr の 0 段 3 条。28・29 は、1 段 R と 0 段多条の組み合わせ。30 ～ 65 は無節縄文。30 ～ 54 は 1 段 L。55 ～ 65 は、1 段 R。66 ～ 124 は単節縄文。66 ～ 93 は、2 段 LR。94 ～ 123 は 2 段 RL。なお、無節、単節としたものの中には小片のため羽状縄文が含まれている可能性は否定できない。125 ～ 201 は羽状縄文。125 ～ 145 は無節の羽状縄文。146 ～ 197 は単節の羽状縄文。198 ～ 201 は無節と単節を結束した羽状縄文。

202 ～ 243 は、附加条の羽状縄文。202 ～ 235 は、1 段 R に 2 本の 1 段 l を反対に巻き付けた附加条とその逆撚りで羽状に施文。236 ～ 243 は、1 段 R に 1 本の 0 段 r を反対方向に巻き付けた附加条と 1 段 L に 1 本の 0 段 l を巻き付けた附加条で羽状に施文。244 ～ 247 は絡条体による網目状文。原体の先が太く元が細い 0 段 l を軸に交差させて巻き付ける。巻き付け方向は 2 度変えている。244・246 及び 247 は同一個体か。

248 ～ 251 は、原体が判別できない破片。

252 ～ 263 は、上記の深鉢形土器の底部片。ほとんどが平底を呈するが、256 及び 257 は上げ底と推測できる。

264 は突起を伴う波状口縁部片。265 は口縁部の装飾把手か。縁に連続突起を配し、外面には 3 段の押引文を施す。

なお、出土石器の詳細については第 28 図及び第 17 表に掲載した。

土坑出土遺物（第 28 図 266）

黒浜式土器の胴部片。無節の羽状縄文。

遺構外出土遺物（第 28 図 267 ～ 279）

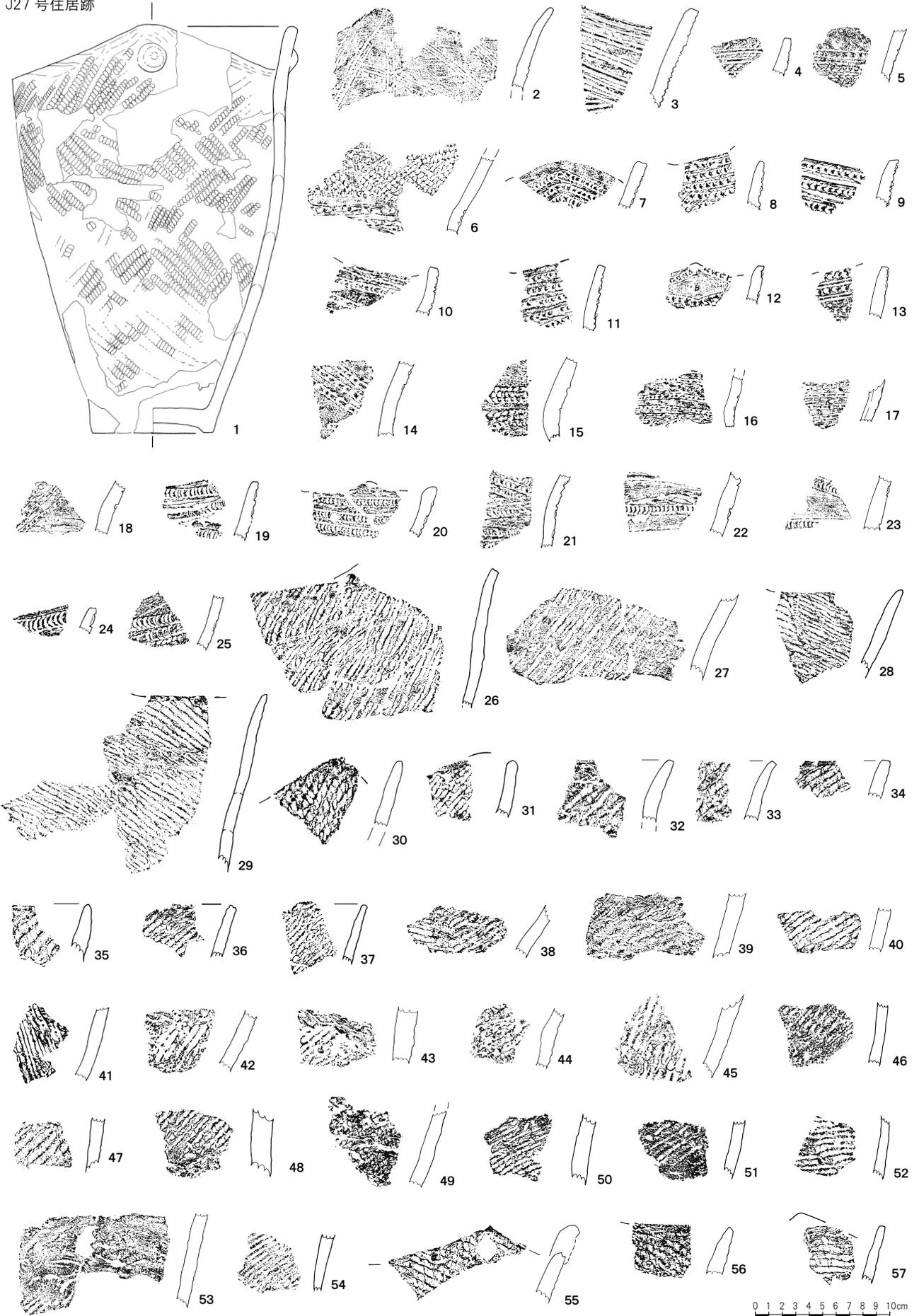
267・268 は黒浜式土器。267 は地文 2 段 LR の口縁部片。268 は地文 RL の胴部片。269 は阿玉台式土器の胴部片。地文 LR 縄文、半截竹管状工具による横位沈線、脇にキャタピラー文と刻み目を施す。胎土に金雲母を含む。270 ～ 278 は加曾利 E 4 式土器。地文は 2 段 LR。271 ～ 273 は波状口縁部。274・275 は 2 本の磨消沈線文。278 は無文の底部片である。279 は、縄文後期と思われる土器の装飾把手片。外面と側面 2 面に RL 縄文を施し、径約 6 mm の孔を片面穿孔する。外面の穿孔部周辺は、ナデによって磨消す。

（田中 信）

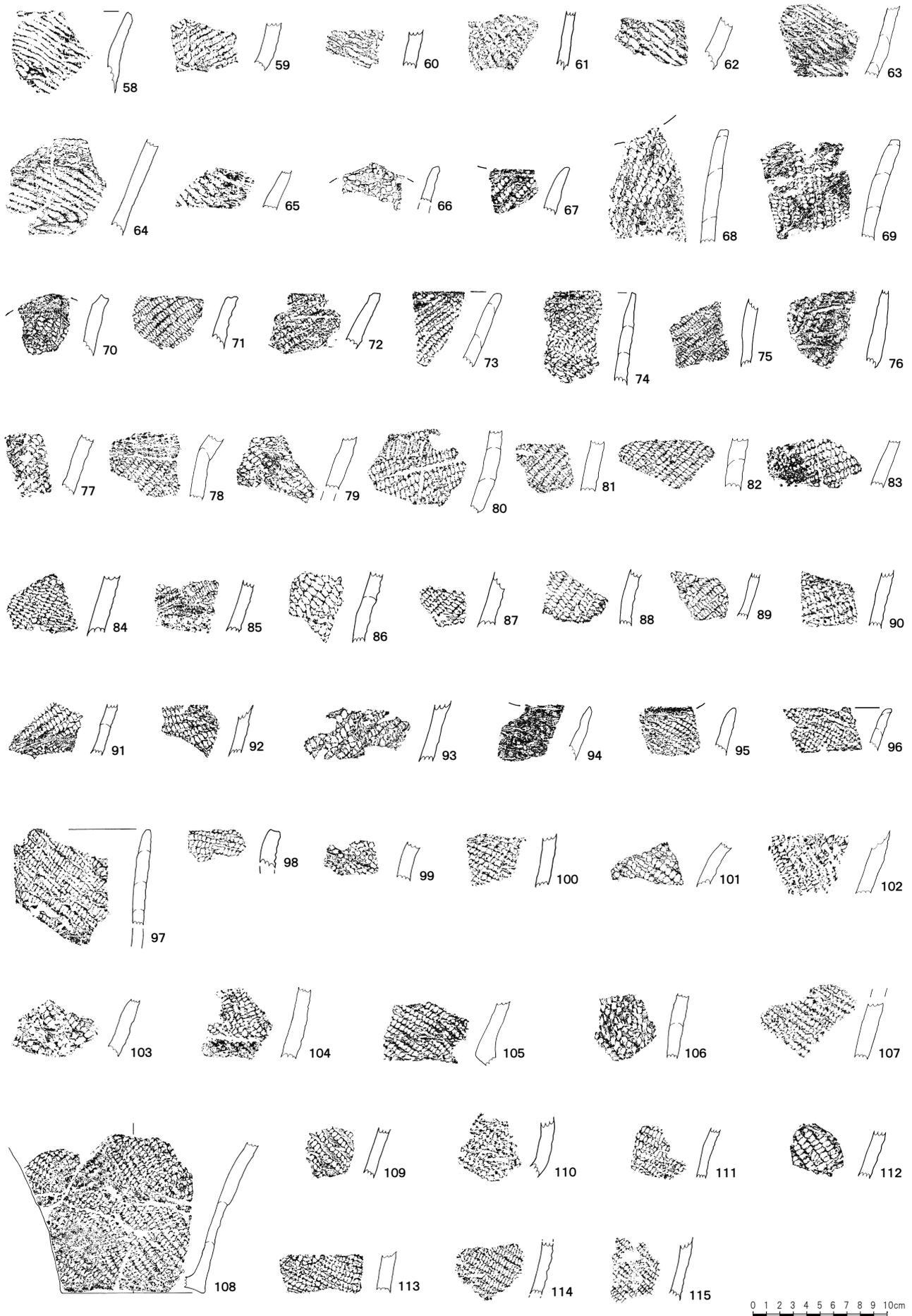
第17表 川崎遺跡第52地点出土石器観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第28図-1	J27号住居跡	磨き石	98.97	29.45	10.59	50.51	完形、全面に手擦れに近い磨痕、石材：粘板岩	—
第28図-2		凹石	9.7	6.2	2.5	219.55	完形、両面に凹痕、両側面に磨痕、敲き痕、石材：砂岩	—
第28図-3		敲き石	13.9	6	4.2	377.10	片面一部欠損、両側面に磨痕、石材：フォルンフェルス	—
第28図-4		磨り石	10.5	6.1	4	384.12	完形、片面に磨痕、石材：砂岩	—
第28図-5		磨り石	8.2	3.7	2	108.19	完形、一側面以外磨痕有、石材：砂岩	—
第28図-6		磨り石	6.7	8.2	3	201.15	完形、ほぼ全面に磨痕、石材：砂岩	—
第28図-7		磨り石	4.9	8.9	4.8	234.46	完形、ほぼ全面に磨痕、石材：砂岩	—
第28図-8		磨り石	6	7	2.9	162.39	完形、片面に磨痕、石材：砂岩	—
第28図-9		磨り石	6.9	7	2.7	155.96	片面一部欠損、欠損部以外ほぼ全面に磨痕、石材：砂岩	—
第28図-10		剥片	21.49	35.07	12.29	8.13	横長剥片、石材：黒曜石	—

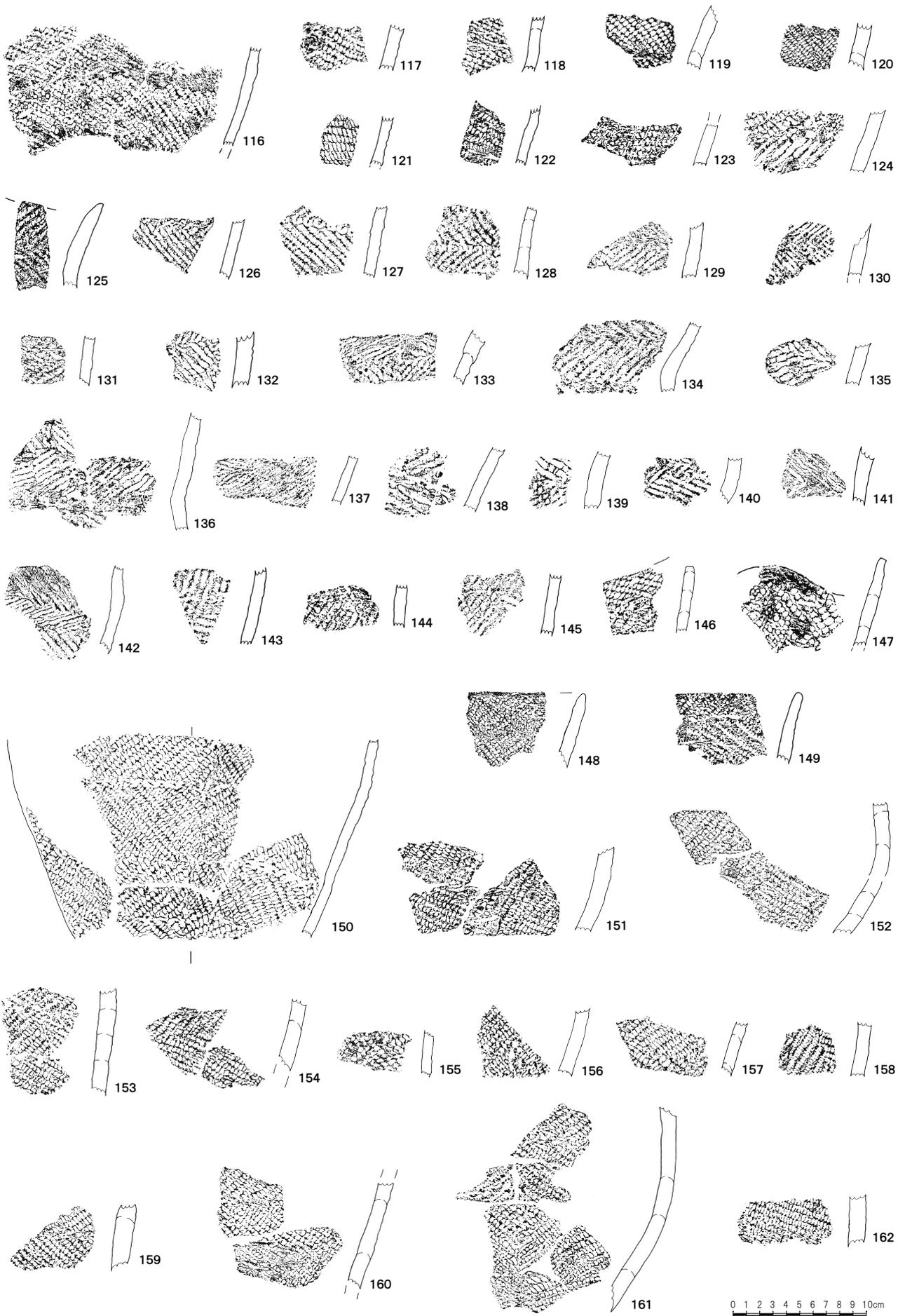
J27号住居跡



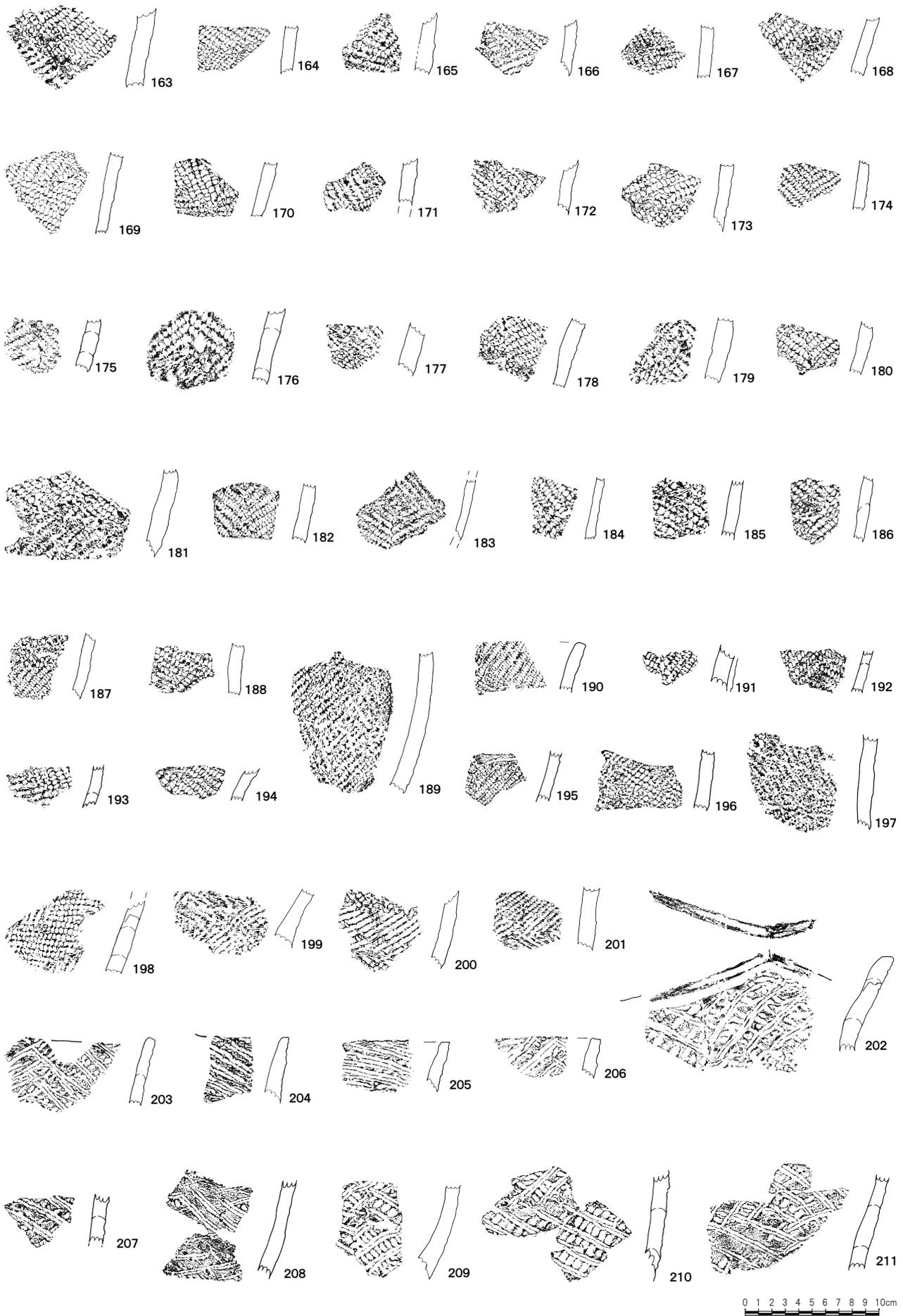
第23図 川崎遺跡第52地点出土遺物①(1/4)



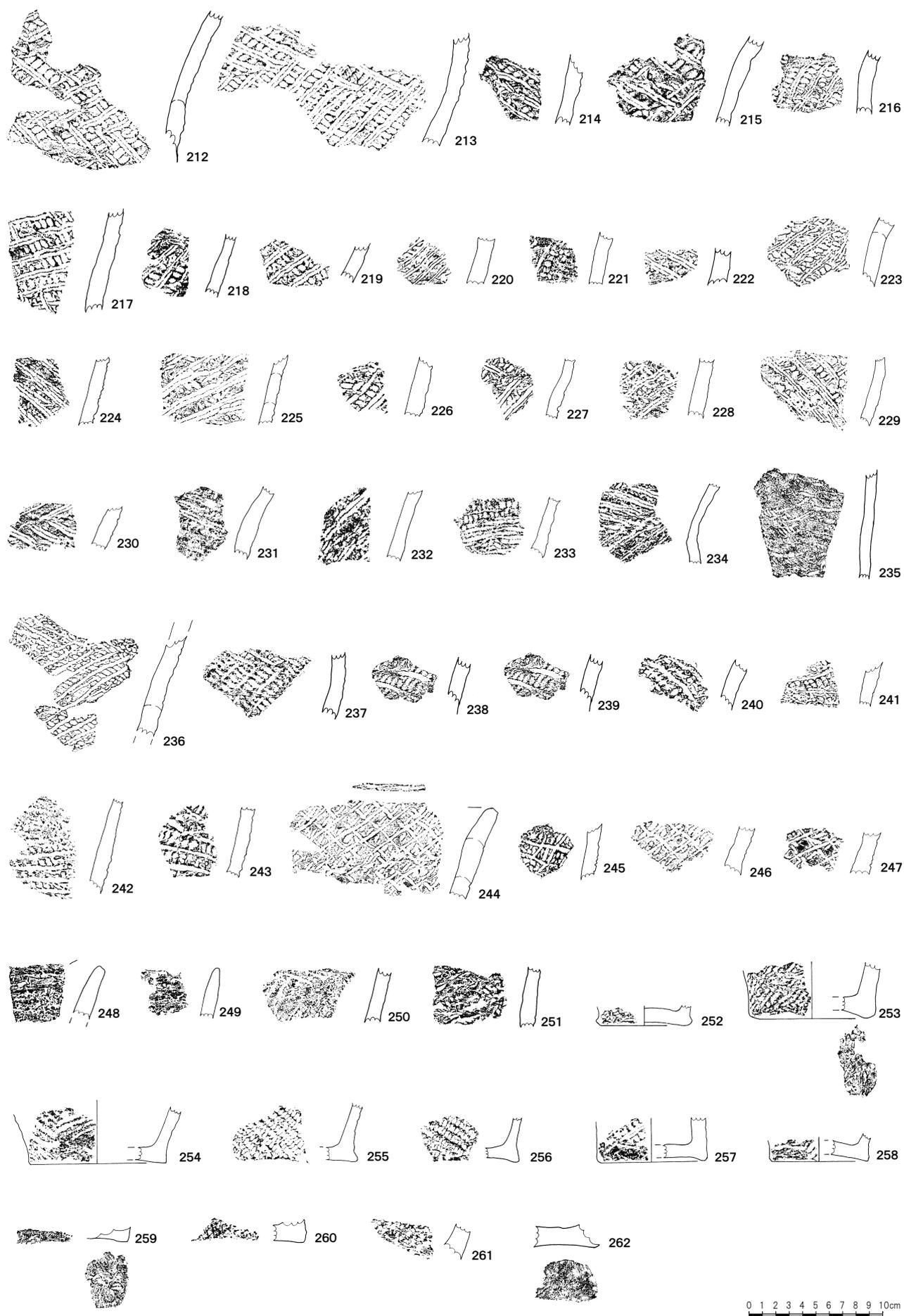
第24図 川崎遺跡第52地点出土遺物②(1/4)



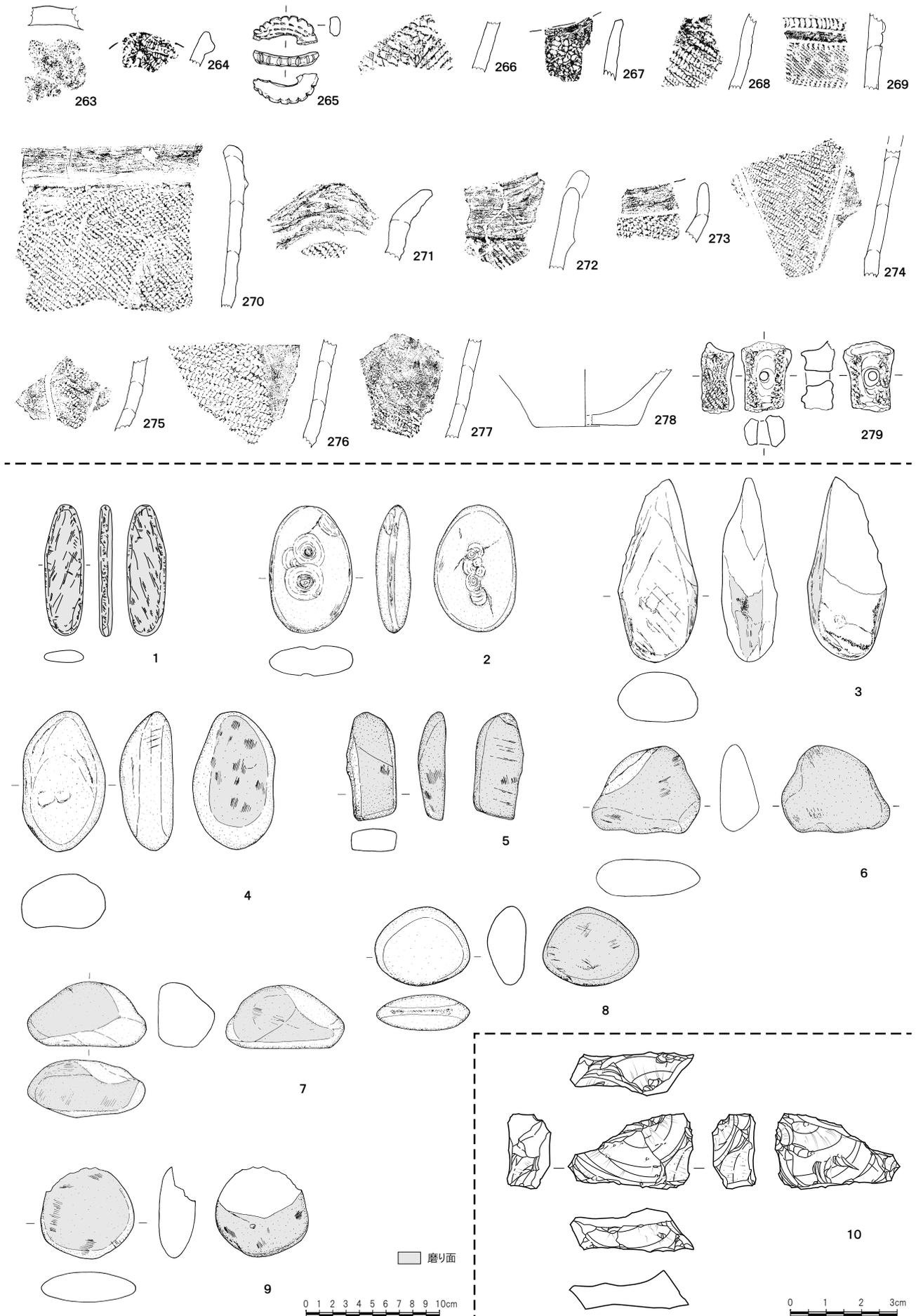
第 25 図 川崎遺跡第 52 地点出土遺物③ (1/4)



第26図 川崎遺跡第52地点出土遺物④(1/4)



第 27 図 川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑤ (1/4)



第28図 川崎遺跡第52地点出土遺物⑥ (1/4・2/3)

② H73 号住居跡

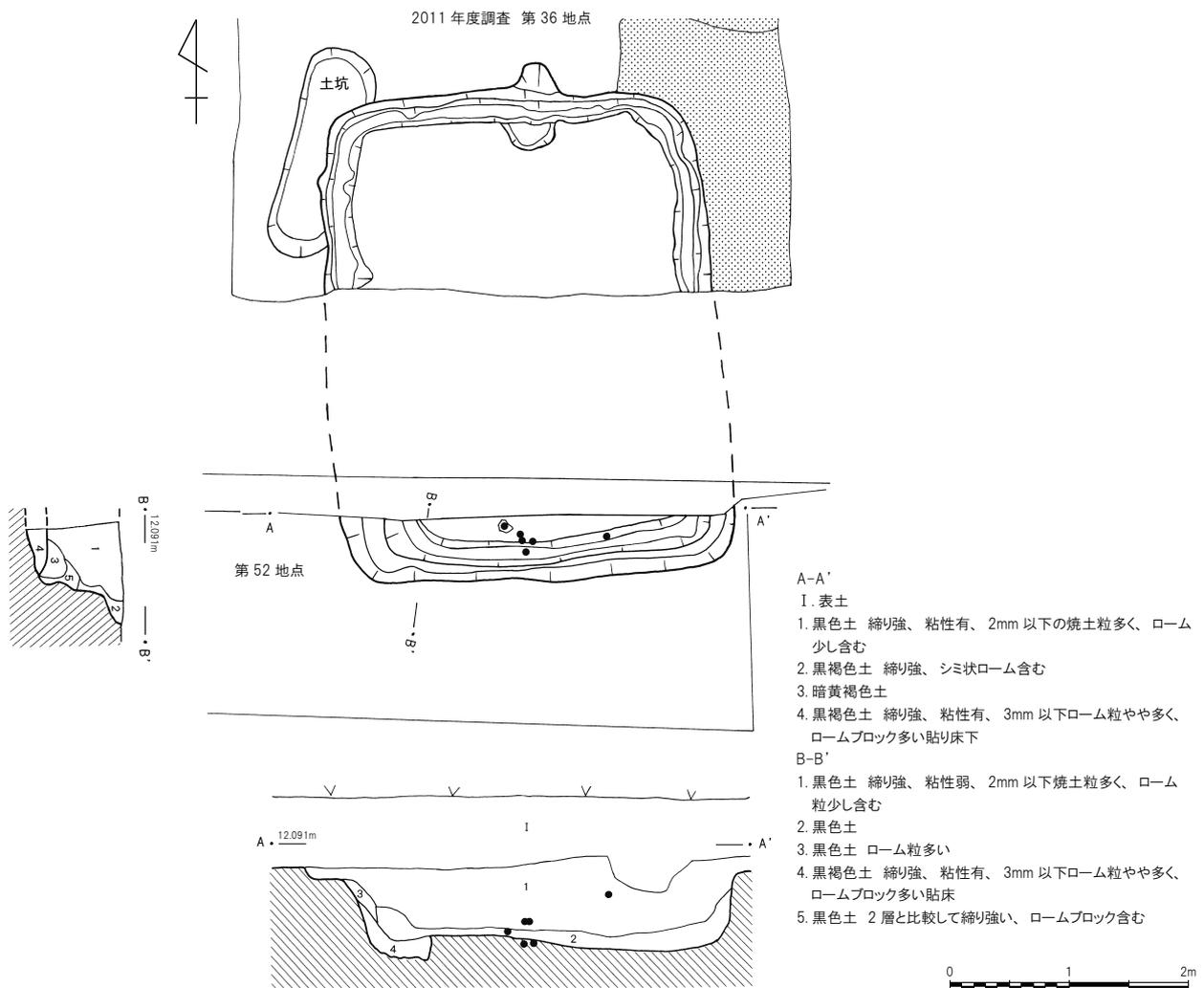
【位置・検出状況】 調査区北東部に位置する。2011年度調査の第36地点で検出した住居跡の南端部である。

【形状・規模】 平面形態は隅丸長方形を呈する。主軸方向はN-2°Eでほぼ南北方向を指向する。規模は南北415×東西320cm、確認面からの深さは約60cmである。

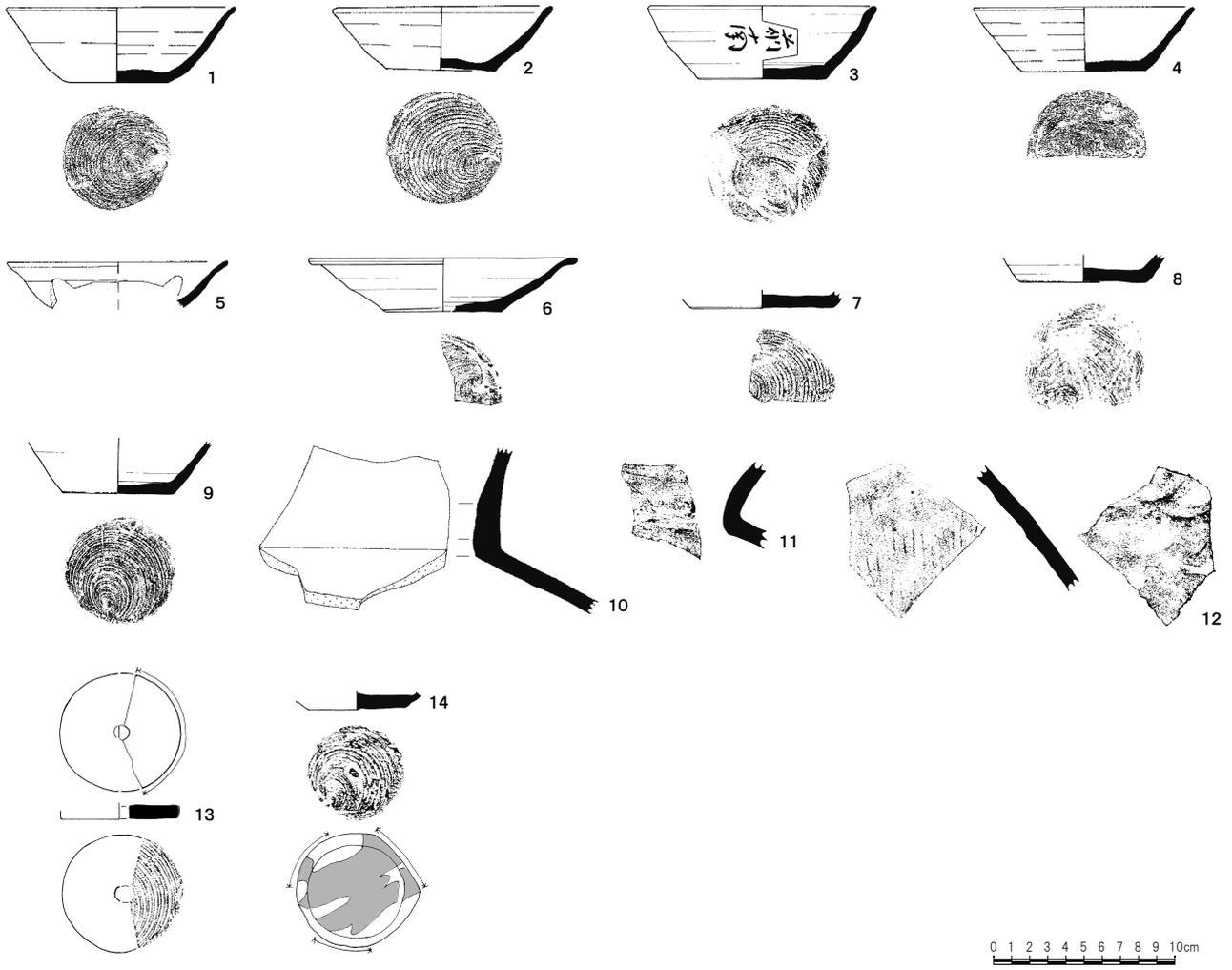
【構造】 今回の調査では柱穴と判断できるピットは検出されなかった。また、第36地点の調査でも明確な柱穴痕は確認されていないため、詳細は不明である。周溝については前回調査同様、全体を巡るように検出した。規模は上幅約20cm、下幅5～10cm、深さ5～15cmを測る。

【遺物出土状況】 遺物は床面直上及び周溝内より出土した。遺物の詳細については第30図及び第18表に掲載した。また、本報告書の刊行にあたり、前回調査の出土遺物の再検討を行ったところ、新たに墨書土器1点の存在が明らかとなったため、併せて報告する。

【時期】 出土遺物より9世紀中頃に帰属するものと考えられる。



第29図 川崎遺跡第52地点H73号住居跡(1/60)



第30図 川崎遺跡第52地点H73号住居跡出土遺物(1/4)

第18表 川崎遺跡第52地点 H73号住居跡出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第30図-1	H73号住居跡	須恵器坏	12.6	5.8	4.2	—	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成良好、胎土色調青灰色、東金子窯産、口縁部一部欠失(意図的欠損力)	9世紀中頃
第30図-2		須恵器坏	12.2	6.4	3.5	—	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成良好、胎土色調青灰色、海綿骨針を含む、南比企窯産、口縁部一部欠失(意図的欠損力)胎土色調灰色・赤褐色、使用による摩耗著しい、口縁部一部欠損(意図的欠損力)	9世紀中頃
第30図-3		須恵器坏	12.6	7.0	4.1	—	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成不良、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、体部から底部にかけて煤付着、体部外面に横位に墨書「前南」	9世紀中頃
第30図-4		須恵器坏	12.2	(6.5)	3.6	—	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成やや不良、胎土に海綿骨針含む、南比企窯産、内外面使用による摩耗有り	9世紀中頃
第30図-5		須恵器坏	12.5	—	—	—	体部片、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、胎土色調暗灰色、東金子窯産	9世紀中頃
第30図-6		須恵器皿	14.8	6.4	3.0	—	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、内面に煤付着、東金子窯産	9世紀中頃
第30図-7		須恵器坏	—	7.6	(0.9)	—	底部片、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、胎土灰青色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9世紀中頃
第30図-8		須恵器坏	—	7.0	(1.5)	—	底部片、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成不良	9世紀中頃
第30図-9		須恵器坏	—	6.0	(3.0)	—	体部下半から底部片、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成良好、胎土色調赤褐色、内面煤付着、内面摩耗	9世紀中頃
第30図-10		須恵器甕	—	—	—	—	頸部片、肩に降灰、焼成良好、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9世紀中頃
第30図-11		須恵器甕	—	—	—	—	頸部片、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9世紀中頃
第30図-12		須恵器甕	—	—	—	—	肩部片、外面は平行叩、降灰、内面は当具痕をナゲ消す	9世紀中頃
第30図-13		須恵器坏転用紡錘車	6.5	—	—	—	轆轤右回転の須恵器坏を円盤形に端部を丁寧に磨き径6.5cmの円盤に成形、中央に径8mmの穿孔	9世紀中頃
第30図-14		須恵器坏	—	5.5	—	—	底部片(円盤形、意図的力)、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、底部に煤付着	9世紀中頃

③ J27号住居を壊す土坑群(第31図)

J27号住居の調査段階で、5基の土坑が重複していた。いずれも住居を壊す土坑で、住居プラン面で確認した。以下、概略を示す。

土坑1

住居の南側で調査区境にくいこむ。東西100cm、南北110cmのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは概ね30cm程度で住居跡覆土の2層目で掘り込みがとまり、住居床面までには及んでいない。断面は鍋底状を呈する。覆土は締まりのない暗褐色土でローム粒子を含む層が主体をなす。遺物の出土なし。時期不詳。

土坑2

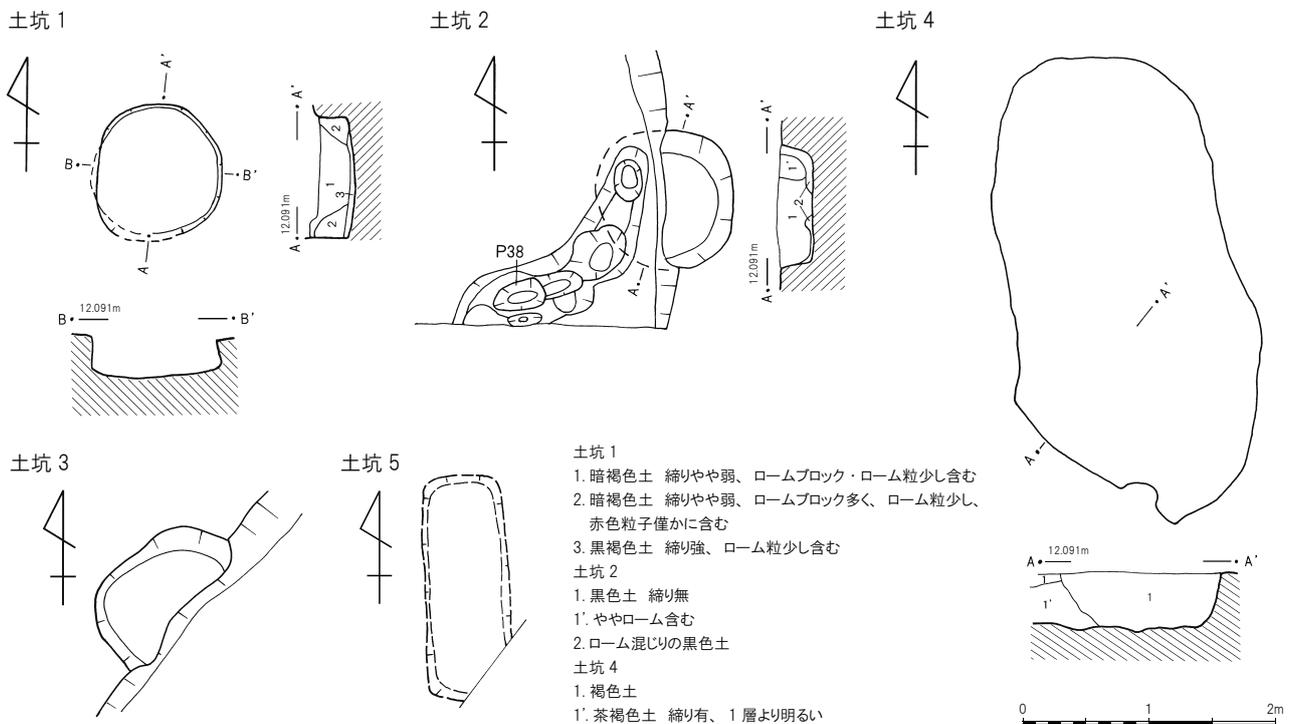
住居の南東側壁の一部を壊して存在。土坑1と規模・覆土・断面形ともほぼ同一のものである。深さも30cmで住居床までは達していない。住居調査の段階で壁面露出の作業で最終的に東側のみが残存するだけとなった。遺物の出土なし。時期不詳。

土坑3

土坑1と対局の住居跡北西コーナーを壊すように掘られ西北側の掘り込みのみ残存していた。一辺125cm、深さ20cmで覆土は縄文特有の茶褐色土でやや締まりがある。覆土上層から加曽利E IV期の遺物が出土している。縄文時代中期の土坑の可能性はある。

第19表 川崎遺跡第52地点土坑一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	110 × 100	98 × 97	30
2	不明	108 × (53)	—	30
3	不明	125 × —	—	20
4	長楕円形	380 × 190	—	60
5	長方形	180 × 65	—	15 ~ 18



第31図 川崎遺跡第52地点土坑(1/60)

土坑4

試掘段階のトレンチ2で確認された掘り込み。上端で長径380cm、短径190cm、深さは最も深い部分で60cmほどの長楕円形を呈する。結果としてはJ27号住居跡北東隅を破壊し、深さも住居床面を5cm前後掘り込んでいた。底面、壁面ともに比較的凹凸が少ない。壁面は急傾斜角をもって立ち上がる。覆土は褐色土が主体である。明らかに掘り窪めて遺物を一括投棄するもので、種々雑多な遺物が含まれていることから、ゴミ穴的な性格を想定した。

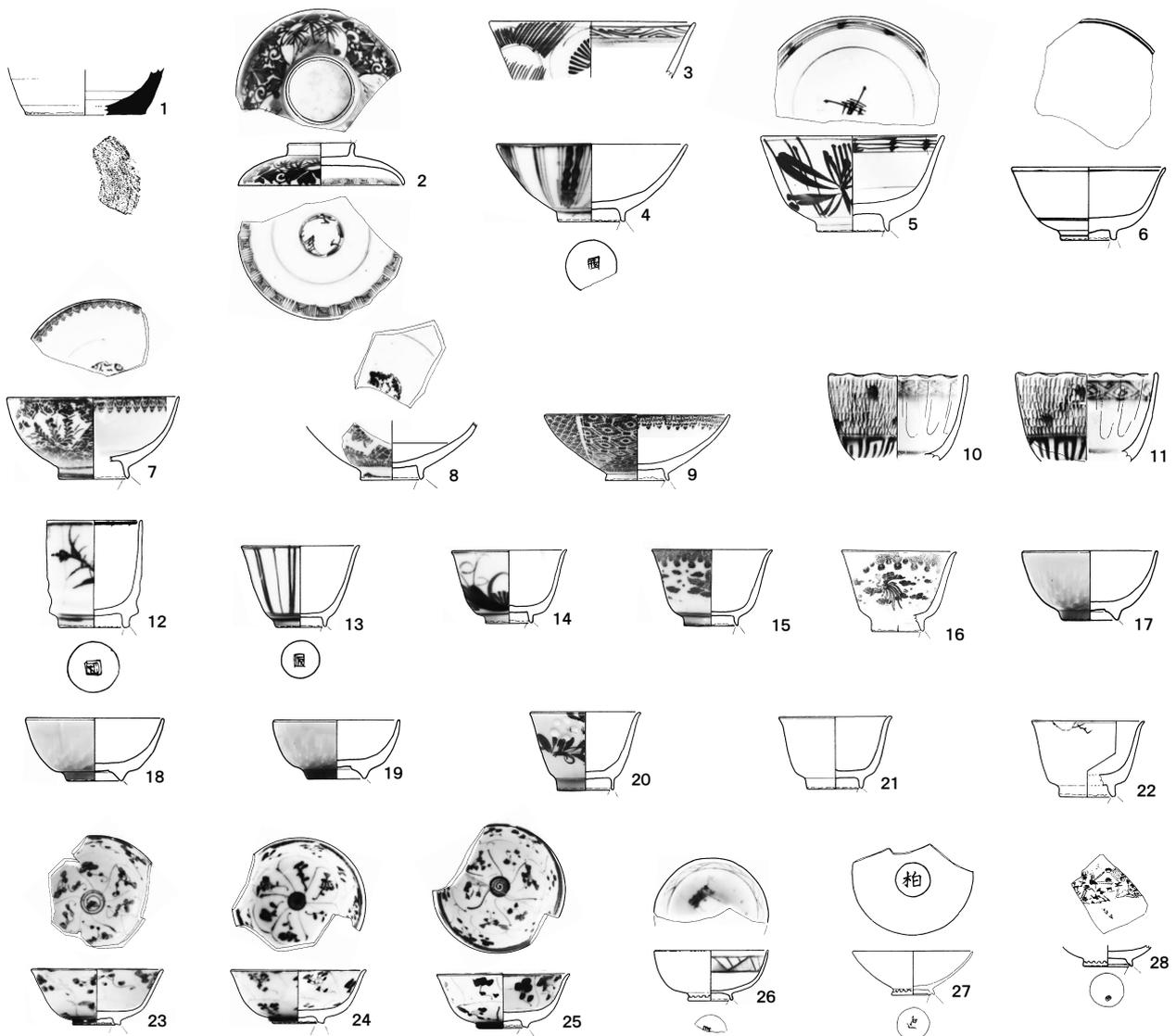
遺物 陶磁器・瓦・甕・貝(巻貝が最多)・礫・ガラス瓶・鳥骨・銭・泥メンチなどコンテナ(40cm×30cm×15cm)で10箱分が出土した。なかでも瓦片が最も多い。

時期 出土遺物から幕末～大正期。

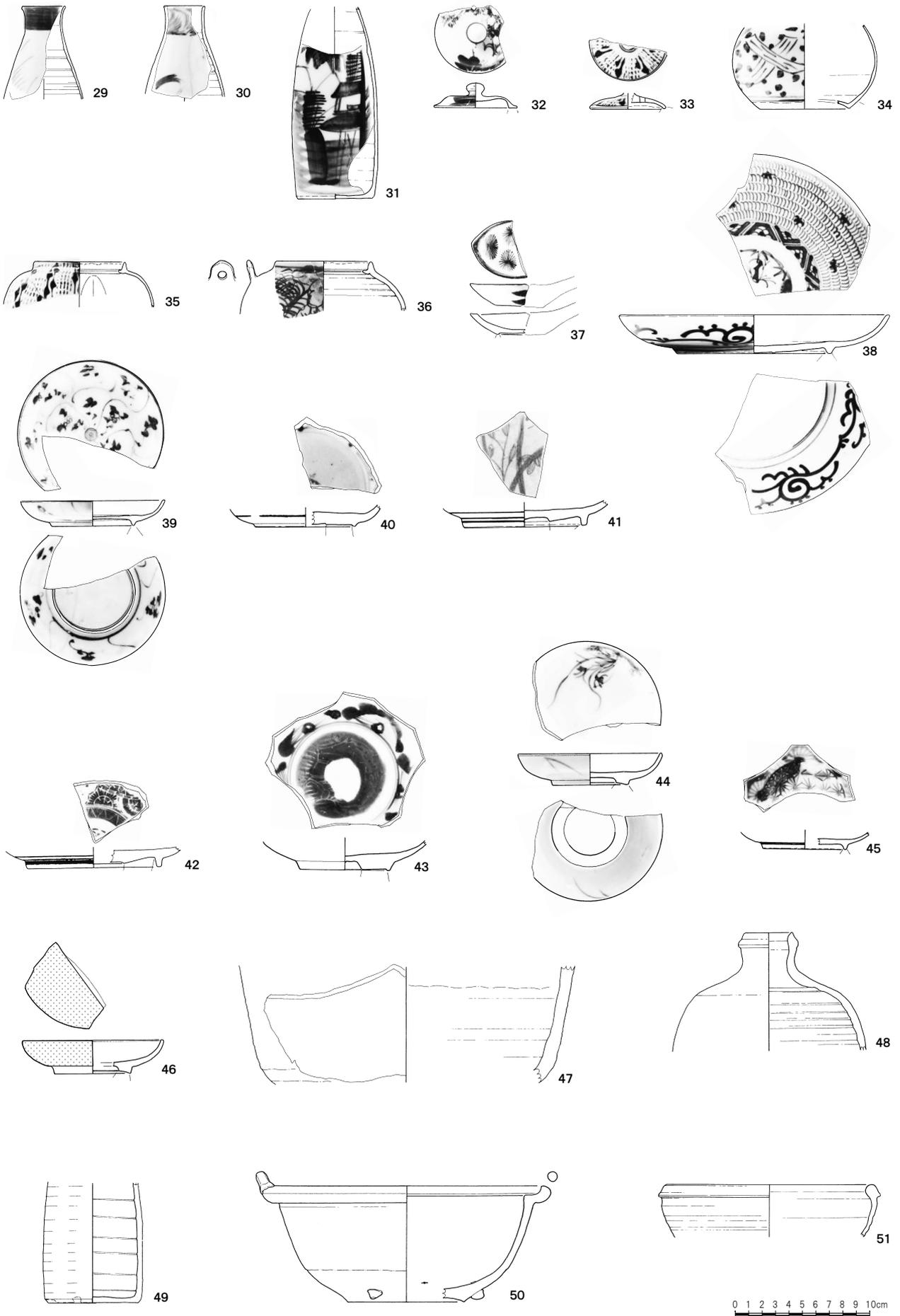
遺構の性格 廃棄物の処理穴。ごみ穴。

土坑5

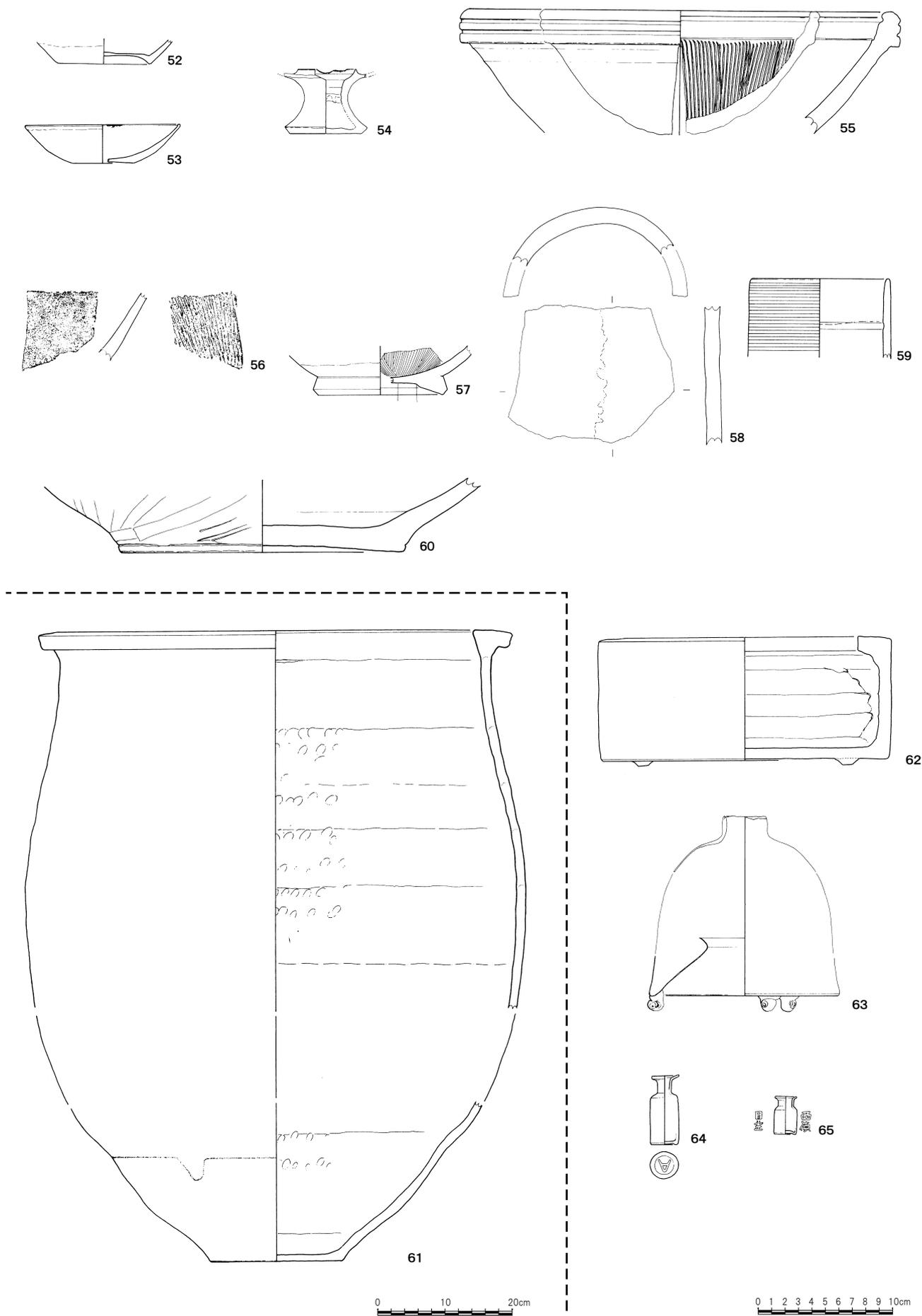
住居の北側のやや西寄りに長径180cm、短径65cmの長方形をなす掘り込みが住居跡の覆土から確認された。深さは15～18cmと浅く住居跡覆土の上層部で底面が留まっていた。覆土はロームブロックを含む黒褐色土が入り込む。時期不詳。



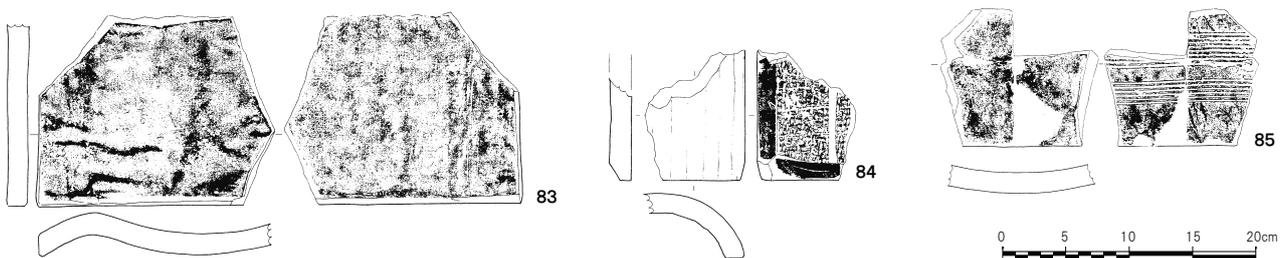
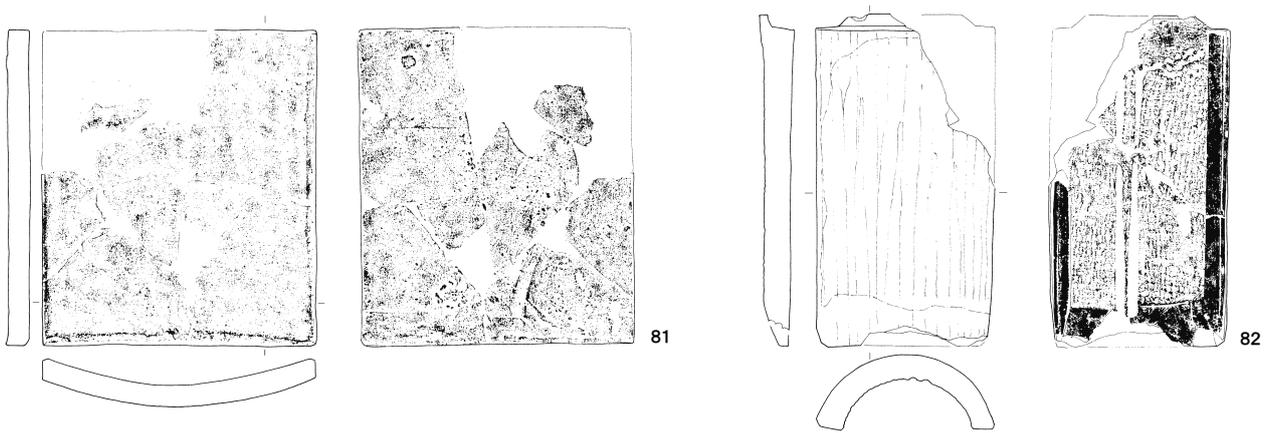
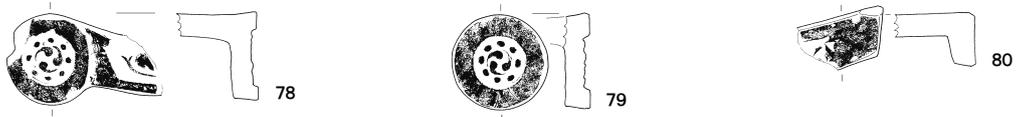
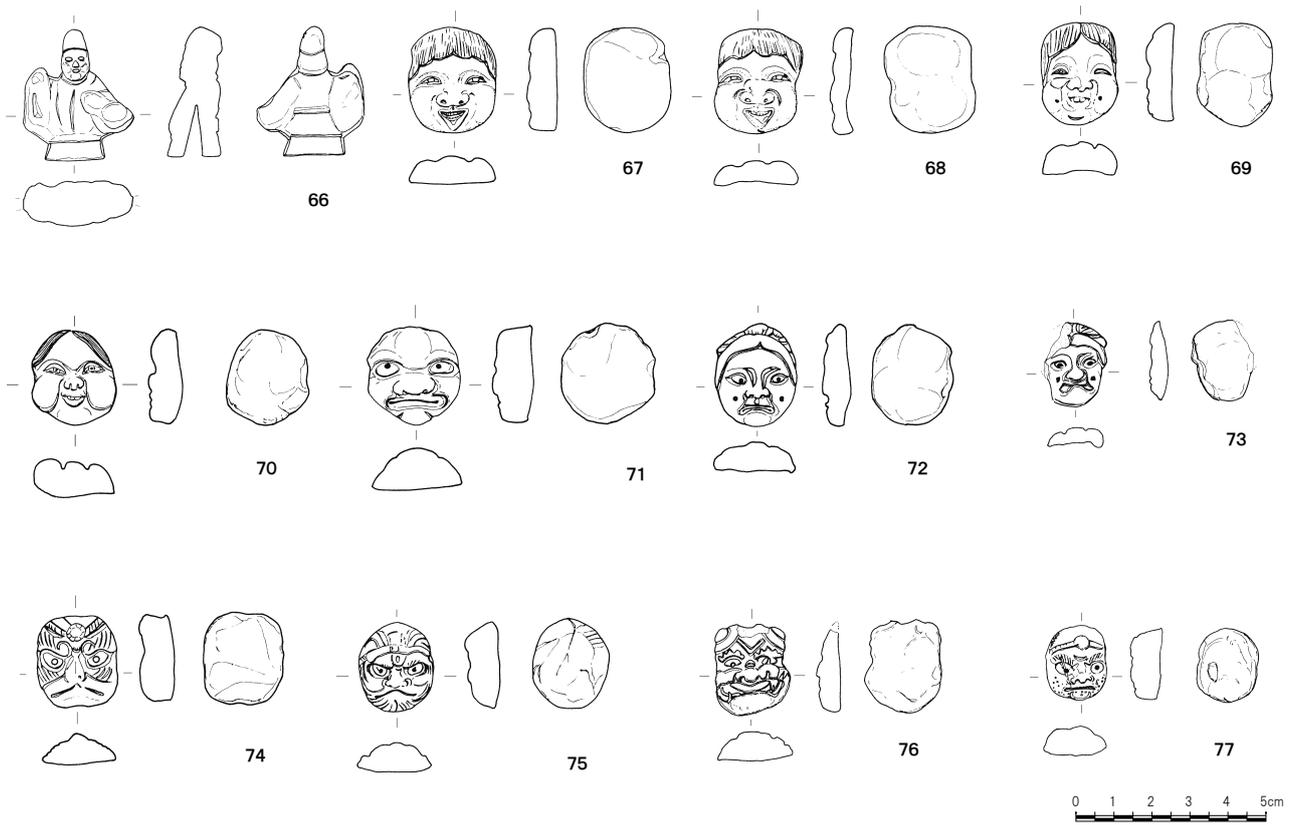
第32図 川崎遺跡第52地点出土遺物⑦(1/4)



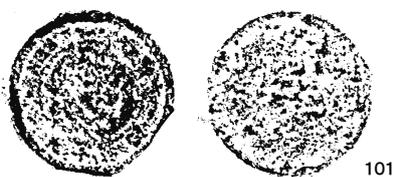
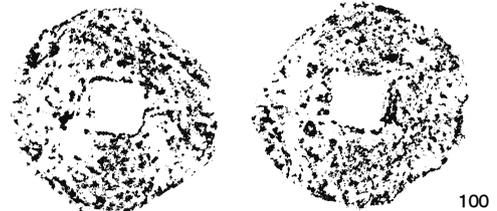
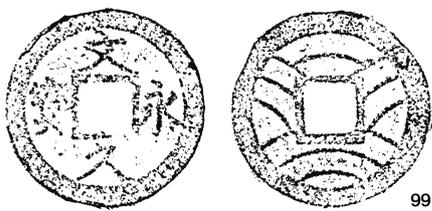
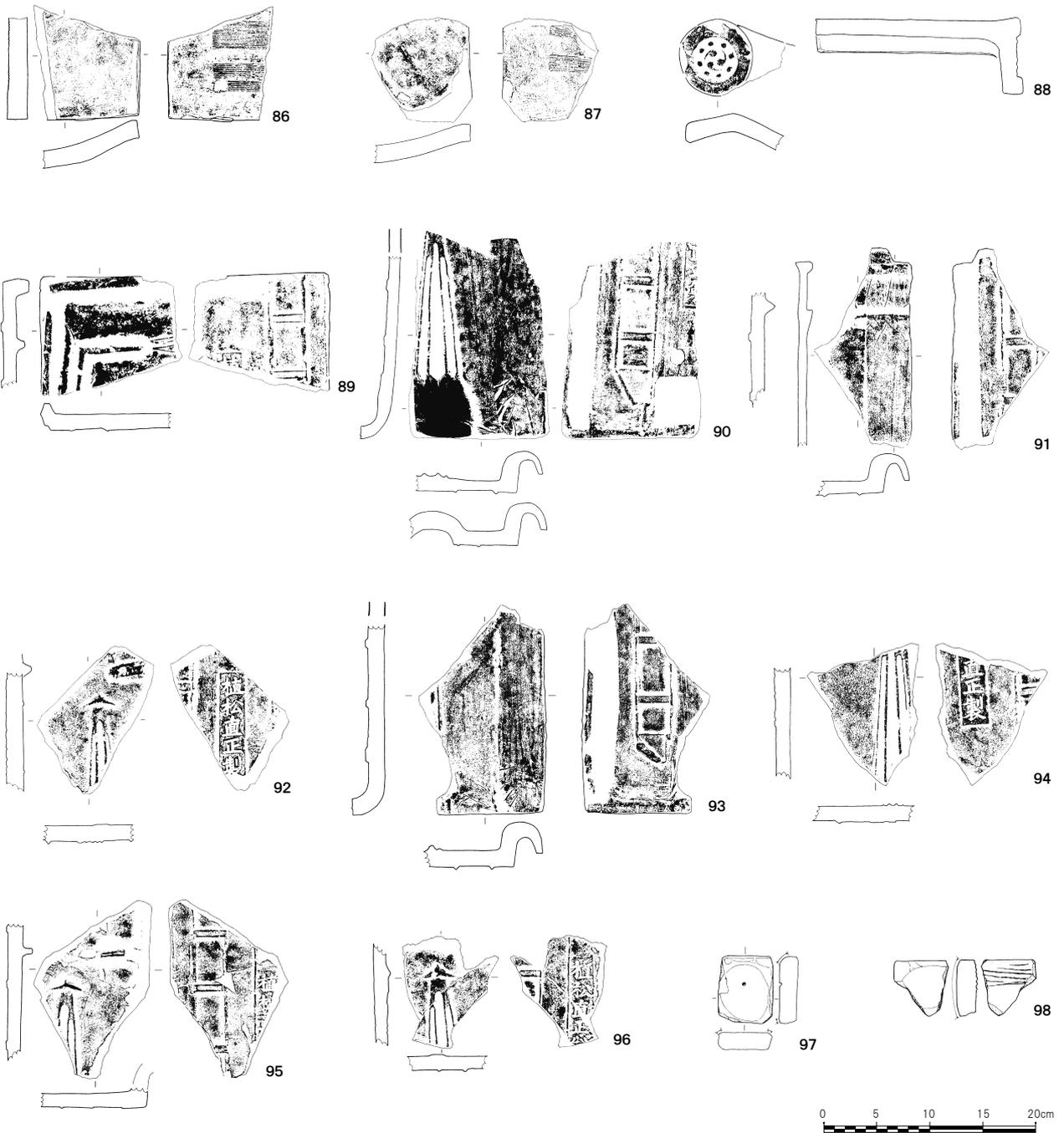
第33図 川崎遺跡第52地点出土遺物⑧(1/4)



第34図 川崎遺跡第52地点出土遺物⑨ (1/8・1/4)



第35図 川崎遺跡第52地点出土遺物⑩ (1/6・1/2)



第36図 川崎遺跡第52地点出土遺物①(1/6・1/1)

第20表 川崎遺跡第52地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・備考	時期・型式
第32図-1	土坑4	須恵器小甕	—	6.8	(2.7)	—	轆轤成形、底部糸切離痕を残す	9世紀中頃
第32図-2		瀬戸美濃系磁器碗蓋	9.4	3.8	2.4	—	轆轤成形、コバルト、手描、外面草花文、内面変形雷文・一重圏線内に松竹梅繁文	1870年代～
第32図-3		瀬戸美濃系磁器碗	11.8	—	(3.3)	—	轆轤成形、端反、コバルト、手描、外面素描唐草文、内面口縁部波濤文	1870年代～
第32図-4		瀬戸美濃系磁器碗	11.0	3.8	4.5	—	轆轤成形、コバルト、手描、外面放射状文、高台内圏線内に一重角に「岐」力、畳付釉剥	1870年代～
第32図-5		瀬戸美濃系磁器碗	10.4	4.2	5.5	—	轆轤成形、コバルト、手描、外面植物文、内面帯文、畳付釉剥	1870年代～
第32図-6		瀬戸美濃系磁器碗	8.8	3.2	8.2	—	轆轤成形、コバルト、外面口縁に一重・腰部に二重圏線、畳付釉剥	1870年代～
第32図-7		瀬戸美濃系磁器碗	9.8	4.0	4.6	—	轆轤成形、コバルト、型紙刷、外面青海波に唐草・宝の粹文、内面口縁部に瓔珞文、見込みに松竹梅繁文、畳付釉剥	1880年代～
第32図-8		瀬戸美濃系磁器碗	—	3.5	(3.3)	—	轆轤成形、コバルト、型紙刷、外面腰に連弁文、見込松竹梅繁文、	1880年代～
第32図-9		瀬戸美濃系磁器碗	10.6	3.6	3.8	—	轆轤成形、コバルト、型紙刷、外面青海波・菱形に菊の連続文、内面口縁部瓔珞文、畳付釉剥	1880年代～
第32図-10		瀬戸美濃系磁器向付	8.1	—	(5.0)	—	輪花の型作、コバルト、手描、外面鹿の子に松文散し・腰部連弁文、内面口縁部四方禪文	1870年代～
第32図-11		瀬戸美濃系磁器向付	8.0	—	(4.9)	—	輪花の型作、コバルト、手描、外面鹿の子に松文散し・腰部連弁文、内面口縁部四方禪文	1870年代～
第32図-12		瀬戸美濃系磁器碗	5.4	3.9	6.2	—	轆轤成形、筒形、コバルト、手描、外面草花文、高台内一重圏線に一重角「岐」力、畳付釉剥	1870年代～
第32図-13		瀬戸美濃系磁器小碗	6.8	2.9	4.6	—	轆轤成形、コバルト・緑絵具、外面鎊文、高台内一重圏線に一重角「岐」、畳付釉剥	1890年代～
第32図-14		瀬戸美濃系磁器小碗	6.6	2.6	(4.2)	—	轆轤成形、コバルト、手描、外面草花文、畳付釉剥	1870年代～
第32図-15		瀬戸美濃系磁器小碗	6.8	3.0	4.4	—	轆轤成形、コバルト、銅版転写、外面瓔珞文に飛雲・鳳凰・桐文	1890年代～
第32図-16		瀬戸美濃系磁器小碗	6.5	2.9	4.6	—	轆轤成形、コバルト、銅版転写、外面瓔珞文に飛雲・鳳凰・桐文	1890年代～
第32図-17		瀬戸美濃系磁器小碗	7.7	3.1	4.0	—	轆轤成形、外面クロム青磁・ヘラで松皮文、蛇の目高台内無釉	1890年代～
第32図-18		瀬戸美濃系磁器小碗	7.8	3.2	3.7	—	轆轤成形、外面クロム青磁・ヘラで松皮文、蛇の目高台内無釉	1890年代～
第32図-19		瀬戸美濃系磁器小碗	7.2	3.2	3.4	—	轆轤成形、外面クロム青磁・ヘラで松皮文、蛇の目高台内無釉	1890年代～
第32図-20		瀬戸美濃系磁器小碗	6.3	3.1	4.2	—	轆轤成形、外面クロム青磁、手描、外面白土の点描と緑・茶絵具による草花文、畳付釉剥	1890年代～
第32図-21		瀬戸美濃系磁器小碗	6.2	3.2	4.5	—	轆轤成形、外面クロム青磁、畳付釉剥	1890年代～
第32図-22		瀬戸美濃系磁器小碗	6.4	3.0	4.4	—	轆轤成形、外面クロム青磁、手描、外面茶絵具による草花文、畳付釉剥	1890年代～
第32図-23		瀬戸美濃系磁器小碗	7.5	2.7	3.3	—	轆轤成形、コバルト、手描、内外目に仏芝祝寿文、畳付釉剥	1870年代～
第32図-24		瀬戸美濃系磁器小碗	7.6	2.8	3.1	—	轆轤成形、コバルト、手描、内外目に仏芝祝寿文、畳付釉剥	1870年代～
第32図-25		瀬戸美濃系磁器小碗	7.5	2.8	3.1	—	轆轤成形、コバルト、手描、内外目に仏芝祝寿文、畳付釉剥	1870年代～
第32図-26		瀬戸美濃系磁器盃	6.4	2.4	2.9	2.4	轆轤成形、手描、内面は青絵具の上絵付、櫛高台、高台内に文字、畳付釉剥	20世紀前半
第32図-27		瀬戸美濃系磁器盃	6.4	2.4	2.5	—	轆轤成形、手描、見込みに金彩で「柏」、櫛高台、高台内にコバルトで「同氏」、畳付釉剥	20世紀前半
第32図-28		瀬戸美濃系磁器盃	—	2.8	(1.3)	—	轆轤成形、手描、見込みに上絵付で金・黒絵具による山水文、櫛高台、高台内に文字「岐」力、畳付釉剥	20世紀前半

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・備考	時期・型式
第33図-29	土坑4	瀬戸美濃系磁器燗德利	3.2	—	(7.0)	—	轆轤成形、コバルト、手描、内面釉は口縁部まで	1870年代～
第33図-30		瀬戸美濃系磁器燗德利	3.2	—	(7.0)	—	轆轤成形、コバルト、手描、内面釉は口縁部まで	1870年代～
第33図-31	遺構外	瀬戸美濃系磁器燗德利	—	5.3	(14.4)	—	轆轤成形、コバルト、手描、内面釉は口縁部まで、外面は山水文	1870年代～
第33図-32	土坑4	瀬戸美濃系磁器急須蓋	6.2	—	1.9	—	轆轤成形、コバルト、手描、外面草花文、畳付釉剥	1870年代～
第33図-33		瀬戸美濃系磁器急須蓋	5.6	—	(1.1)	—	轆轤成形、コバルト、手描、放射状文、畳付釉剥	1870年代～
第33図-34		瀬戸美濃系磁器急須身	—	6.7	(6.3)	—	轆轤成形、コバルト、手描、腰から底部は無釉	1870年代～
第33図-35		瀬戸美濃系磁器急須身	6.7	—	(3.4)	—	轆轤成形後型作、コバルト、手描	1870年代～
第33図-36		瀬戸美濃系磁器急須身	7.0	—	(4.1)	—	轆轤成形、コバルト、手描、草花文	1870年代～
第33図-37		瀬戸美濃系磁器蓮華	(4.4)	(4.4)	(1.6)	—	型作、コバルト、手描、松葉文	1870年代～
第33図-38		瀬戸美濃系磁器皿	22.0	11.6	2.9	—	轆轤成形、コバルト、手描、内面鹿の子文に松葉散し・中央松竹梅繫文、外面唐草文、畳付釉剥、底裏にピン痕	1870年代～
第33図-39		瀬戸美濃系磁器皿	10.8	6.2	1.9	—	轆轤成形、コバルト、手描、内外面に仏芝祝寿文、畳付釉剥	1870年代～
第33図-40		肥前系磁器皿	—	7.4	(1.6)	—	轆轤成形、呉須、手描、蛇の目凸高台、凸部釉剥	幕末～ 明治初年
第33図-41		瀬戸美濃系磁器皿	—	9.1	(1.9)	—	轆轤成形、呉須、手描、内面草花文、蛇の目凸高台、凸部釉剥	1870年代～
第33図-42	瀬戸美濃系磁器皿	—	10.0	(1.5)	—	轆轤成形、コバルト、型紙刷、蛇の目凸高台、凸部釉剥	1880年代～	
第33図-43	瀬戸美濃系磁器皿	—	6.8	(2.3)	—	轆轤成形、コバルト、手描、蛇の目凸高台、凸部釉剥	1870年代～	
第33図-44	瀬戸美濃系磁器皿	10.8	5.5	2.4	—	轆轤成形、コバルト、手描、内面から外面に連続して草花文、蛇の目高台、畳付釉剥	1870年代～	
第33図-45	瀬戸美濃系磁器皿	—	6.2	(2.4)	—	轆轤成形、コバルト、見込み菱形花弁文の型押、畳付無釉	1870年代～	
第33図-46	瀬戸美濃系磁器皿	—	10.6	5.7	2.5	轆轤成形、鉄釉の掛け分け、蛇の目高台、畳付釉剥	—	
第33図-47	瀬戸美濃系陶器甕	—	—	(8.9)	—	紐作轆轤整形、外面絞肌釉・腰部錆釉、内面灰釉	幕末～ 明治初年	
第33図-48	瀬戸美濃系陶器德利	3.6	—	(9.0)	—	轆轤成形、灰釉	19世紀前半	
第33図-49	瀬戸美濃系磁器燗德利	—	6.6	(9.1)	—	轆轤成形、口縁部から肩部に銅緑釉の流掛、灰釉、内面無釉	幕末～ 明治初年	
第33図-50	伊賀系土鍋	20.6	8.6	8.8	—	轆轤成形、耳紐作り粘付、鉄釉、三足、内面に目痕、胴下半煤付着	19世紀前半	
第33図-51	瀬戸美濃系陶器片口	16.6	—	(3.9)	—	轆轤成形、灰釉、釉は失透し侘茶色	18世紀後半	
第34図-52	陶器土瓶	—	7.0	(1.9)	—	底部片、轆轤成形、底部は内外面無釉、外面に煤付着	幕末～ 明治初年	
第34図-53	信楽系陶器灯明皿	11.6	4.5	2.9	—	轆轤成形、灰釉、外面無釉、口唇部に若干煙煤付着	幕末～ 明治初年	
第34図-54	信楽系灯明受台	—	5.2	(4.9)	—	轆轤成形、灰釉、底部内外面無釉、皿受け部に若干煙煤付着	幕末～ 明治初年	
第34図-55	堺系播鉢	33.0	—	(9.3)	—	摺り目は10本単位	18世紀後半	
第34図-56	堺系播鉢	—	—	—	—	体部片、摺り目あり	18世紀後半	
第34図-57	益子系陶器播鉢	—	10.1	(3.7)	—	轆轤成形、摺り目は8本単位、鉄釉、腰から高台内無釉、底裏釉剥、腰から高台にかけて赤色顔料付着	幕末～ 明治前半	
第34図-58	常滑系土管	(10.4)	(12.3)	—	—	紐づくり、外面自然釉、内面灰釉	19世紀後半	
第34図-59	筒形陶器	10.4	—	(6.0)	—	器形不明、胎土やや軟質、口縁部外面に22本の条線、外面から内面口縁部まで銅緑色の釉、作り丁寧	—	
第34図-60	常滑焼甕	—	21.3	(5.5)	—	底部片、紐づくり、底部砂底、底部内面は摩耗により滑らか	19世紀前半	
第34図-61	常滑焼甕	70.6	20.0	96.0	—	紐づくり、胴下半に環状痕跡、野垂、内面に尿石	19世紀前半	
第34図-62	土製方形火鉢	21.8	21.3	9.7	—	型作り、内面ナデ著しい、外面刺突の後磨き、外面黒色仕上	幕末～明治	
第34図-63	ガラス製ハエ取器	3.2	14.2	(14.5)	—	3か所に猫足	明治～大正	
第34図-64	ガラス小瓶	2.1	2.0	5.2	—	目薬瓶、底部に「A」	明治～大正	

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・備考	時期・型式
第34図-65	土坑4	ガラス小瓶	1.6	1.6	2.8	—	目薬瓶、側面に「目ハエ(薬)」「西(徳?)」	明治~大正
第35図-66		土人形	3.5	3.0	1.3	—	型合わせ、天神?、底部から垂直に円錐形の穿孔	幕末~明治
第35図-67		泥面子	2.8	2.3	0.8	—	芥子面、唐子?、面模	幕末~明治
第35図-68		泥面子	2.8	2.3	0.6	—	芥子面、唐子?、面模	幕末~明治
第35図-69		泥面子	2.8	2.1	0.7	—	芥子面、おかめ、面模	幕末~明治
第35図-70		泥面子	2.6	2.2	1.0	—	芥子面、おかめ、面模型作り	幕末~明治
第35図-71		泥面子	2.7	2.4	1.1	—	芥子面、外道、面模	幕末~明治
第35図-72		泥面子	2.8	2.2	0.8	—	芥子面、弁財天?、面模	幕末~明治
第35図-73		泥面子	2.2	(1.7)	0.5	—	芥子面、弁財天?、面模	幕末~明治
第35図-74		泥面子	2.5	2.1	0.8	—	芥子面、烏天狗、面模	幕末~明治
第35図-75		泥面子	2.4	2.0	0.8	—	芥子面、烏天狗、面模	幕末~明治
第35図-76		泥面子	(2.4)	2.0	0.8	—	芥子面、鬼、面模	幕末~明治
第35図-77		泥面子	2.0	1.7	0.8	—	芥子面、山伏、面模	幕末~明治
第35図-78		軒棧瓦	—	(12.5)	1.8	—	左巻三巴+珠文、珠文8個、瓦当内径4.3cm	幕末~明治
第35図-79		軒棧瓦	—	7.4	(1.6)	—	左巻三巴+珠文、珠文8個、接着面に櫛目状痕、瓦当内径4.3cm	幕末~明治
第35図-80		軒棧瓦	—	—	1.8	—	左軒棧瓦の右端部、表・側面ヘラナデ仕上	幕末~明治
第35図-81		平瓦	25.2	21.8	1.7	—	表・側面ナデ仕上、裏面ケズリ痕を残す、谷深2.2cm	幕末~明治
第35図-82		丸瓦	26.5	14.1	2.1	—	内径10.1cm、高さ6.0cm、	幕末~明治
第35図-83		棧瓦	(15.2)	(18.8)	1.6	—	表・側・裏面ナデ仕上、裏面はケズリ痕を残す	幕末~明治
第35図-84		丸瓦	(10.4)	(8.0)	1.6	—	凸面はヘラナデ、凹面は布目・刺し子・棒状刺突痕、端部に漆喰付着	幕末~明治
第35図-85		平瓦	(11.0)	(12.2)	1.7	—	裏面は太い条線8本・6本、被熱により土師質	幕末~明治
第35図-86		棧瓦	(10.9)	(10.0)	1.8	—	裏面に条線14本、表面ナデ・左右側面ナデ仕上、木口面未調整	幕末~明治
第35図-87		棧瓦	(10.0)	(9.5)	1.6	—	裏面に条線10本	幕末~明治
第35図-88		軒棧瓦	19.5	(9.9)	1.9	—	表・側面ナデ仕上、左巻三巴+珠文、珠文8個、瓦当裏面に櫛目状痕残す、瓦当内径4.4cm	幕末~明治
第35図-89		ジェラルル瓦	(11.2)	(13.2)	1.3	—	左側上端部、表面・凸界線、凹型連結部、裏面・横帯部、製作者名「植」	明治10年~
第35図-90		ジェラルル瓦	(19.9)	(13.2)	1.1	—	右側下端部、表面・分流帯、凸型連結部、裏面・横帯部、製作者名「植松直正製」	明治10年~
第35図-91		ジェラルル瓦	—	—	1.3	—	右側上端部、表面・凸型連結部(内高3.3cm)、裏面・横帯部	明治10年~
第35図-92		ジェラルル瓦	(13.5)	(10.5)	1.4	—	中央部、表面・分流帯、裏面・製作者名「植松直正製」(明治10年創建の工部大学校に同范あり)	明治10年~
第35図-93		ジェラルル瓦	(20.1)	(12.0)	1.4	—	右側下端部、表面・分流帯、凸型連結部(内高2.9cm)、裏面・横帯部	明治10年~
第35図-94		ジェラルル瓦	(13.5)	(10.6)	1.4	—	中央部、表面・分流帯、裏面・製作者名「〇直正製」	明治10年~
第35図-95		ジェラルル瓦	(17.0)	(10.8)	1.3	—	中央部、表面・分流帯、凸界線、裏面・横帯部、製作者名「植松〇」	明治10年~
第35図-96		ジェラルル瓦	(10.7)	(9.0)	1.3	—	中央部、表面・分流帯、裏面・製作者名「植松直正製」	明治10年~
第35図-97		瓦転用砥石	5.3	5.2	1.9	—	軒棧瓦片を転用	幕末~明治
第35図-98	瓦転用砥石	6.4	5.2	1.6	—	平瓦の転用力	幕末~明治	
第35図-99	銅銭	2.7	—	—	—	文久永宝、波銭、初鑄年	幕末~明治	
第35図-100	鉄銭	2.8	—	—	—	寛永通宝力	1765年~	
第35図-101	銅貨	2.2	—	—	—	半銭	明治10年	



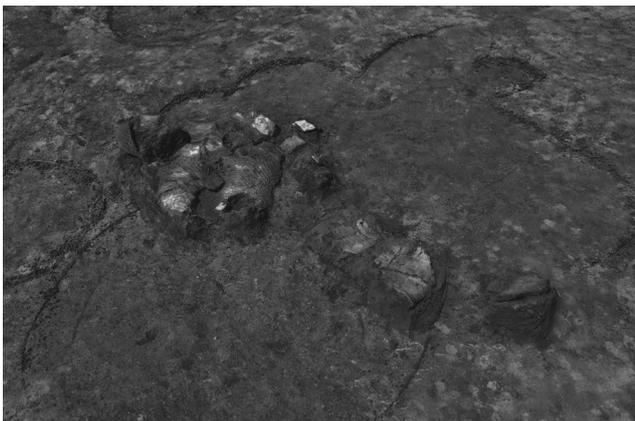
川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡完掘 1



川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡完掘 2



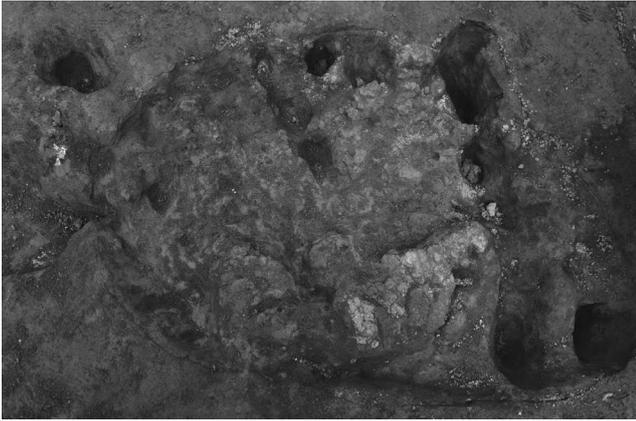
川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡検出状況



川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡遺物出土状況 1



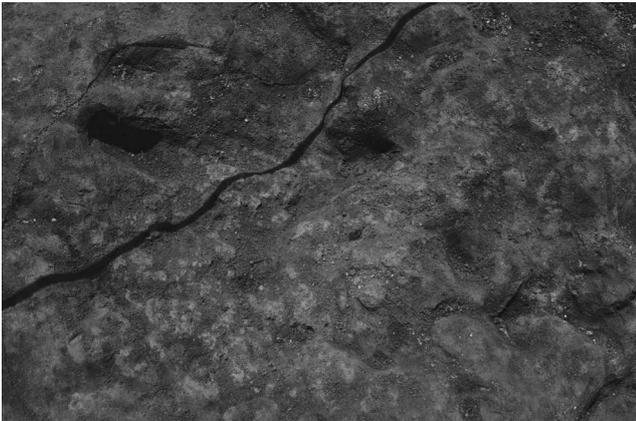
川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡遺物出土状況 2



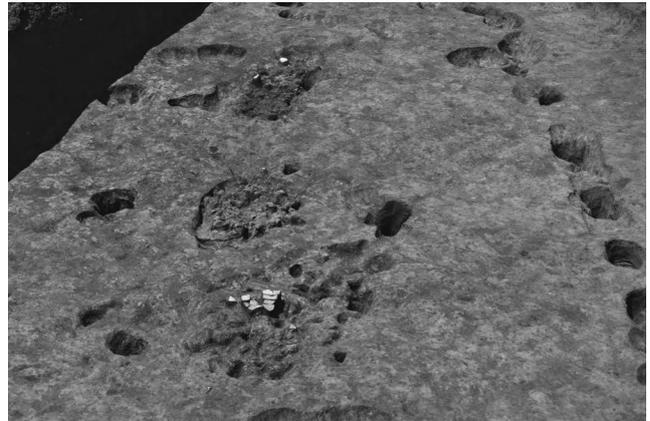
川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉 1



川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉 2



川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉 3



川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉検出状況



川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡完掘



川崎遺跡第 52 地点 H73 住居跡遺物出土状況



川崎遺跡第 52 地点土坑 1



川崎遺跡第 52 地点土坑 3



川崎遺跡第 52 地点ピット 18



川崎遺跡第 52 地点ピット 22



川崎遺跡第 52 地点ピット 1・2・28～31



川崎遺跡第 52 地点調査風景 1

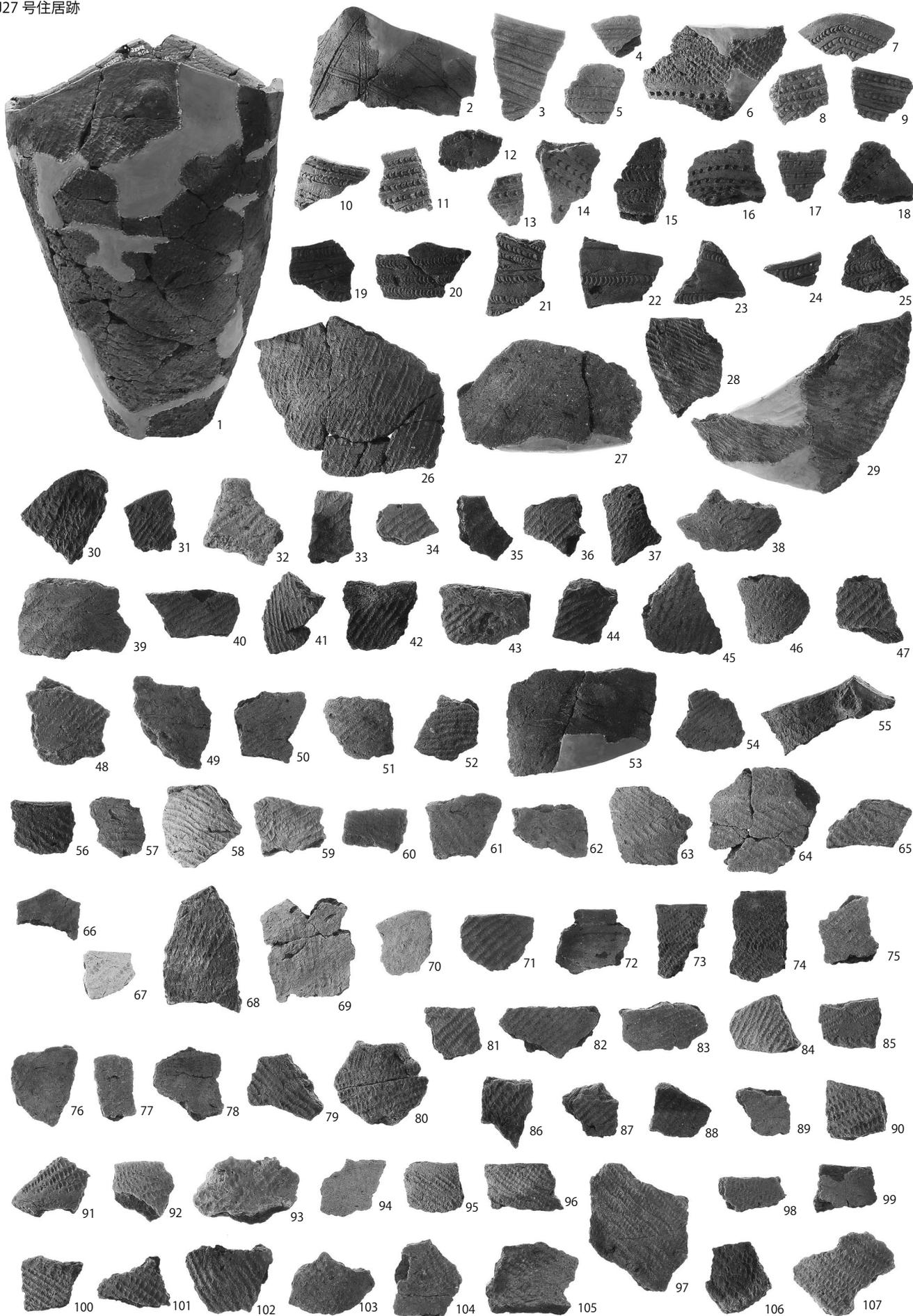


川崎遺跡第 52 地点調査風景 2

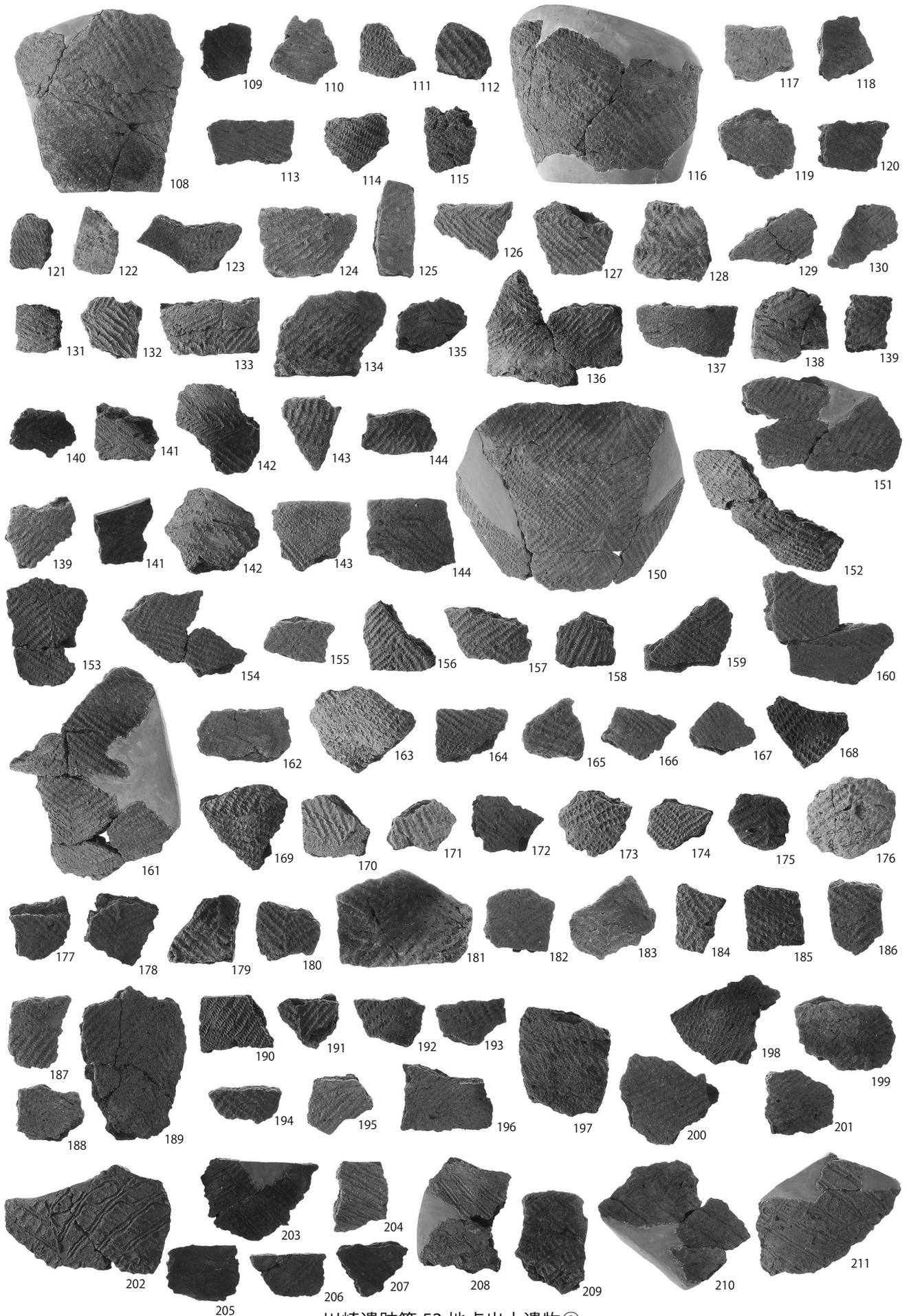


川崎遺跡第 52 地点調査風景 3

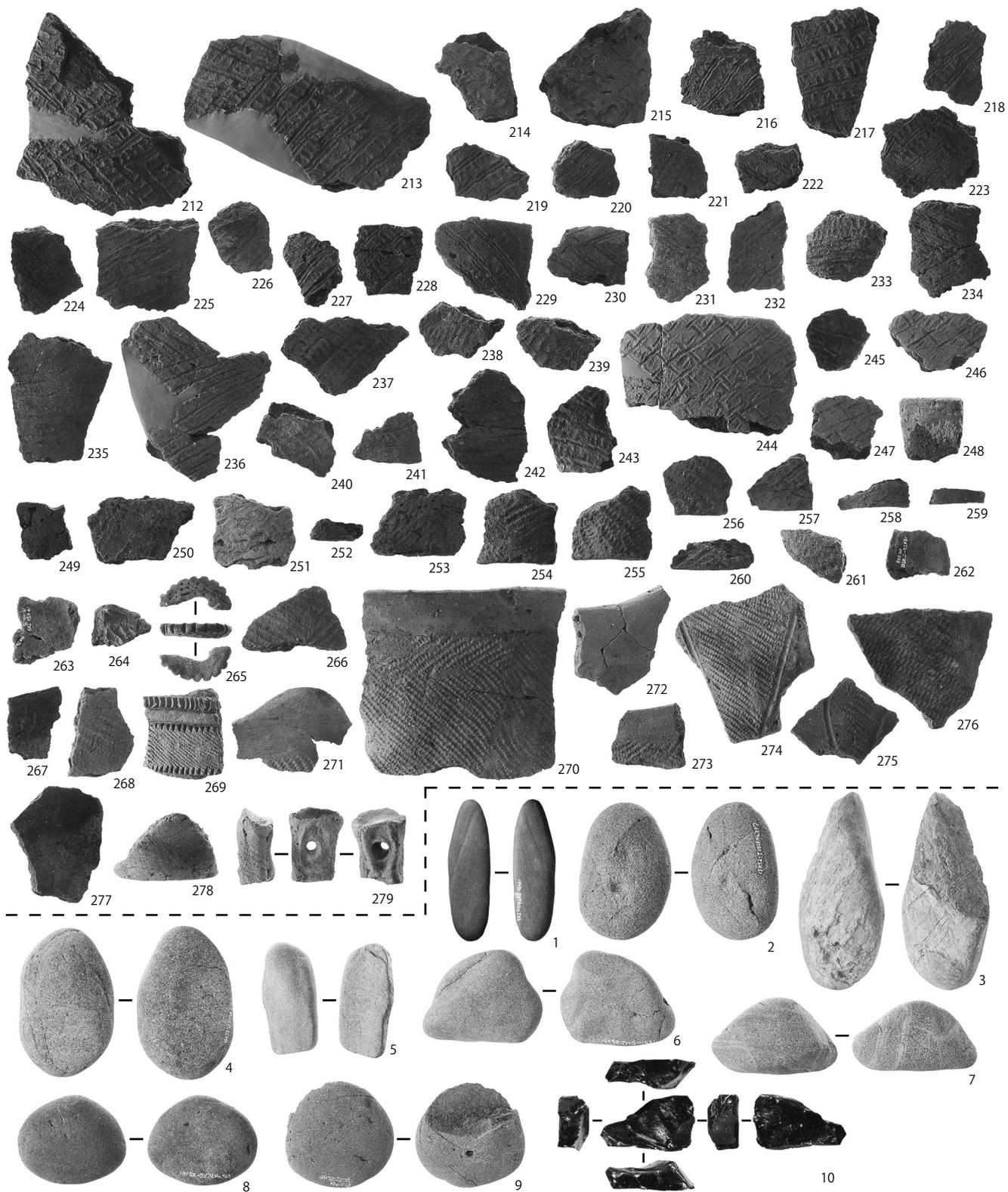
J27 号住居跡



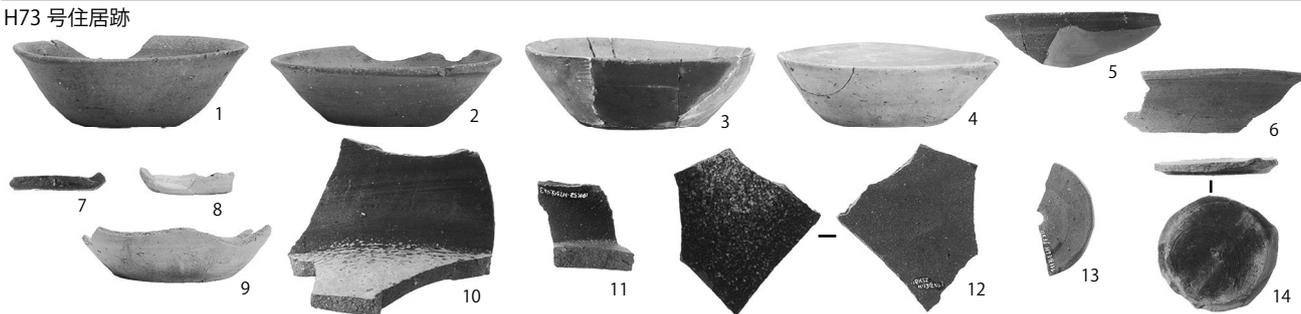
川崎遺跡第 52 地点出土遺物①



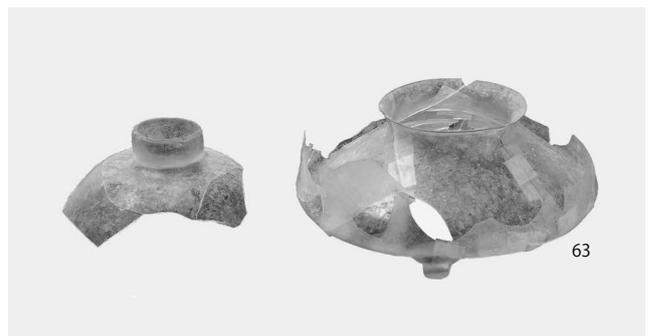
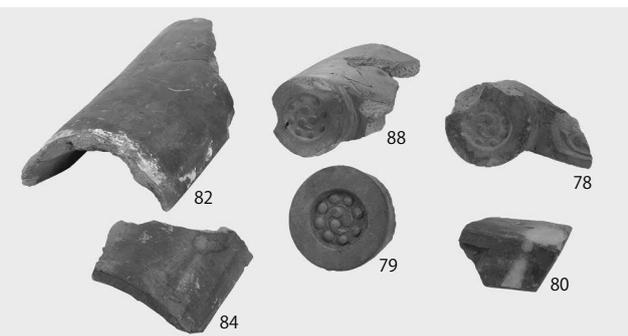
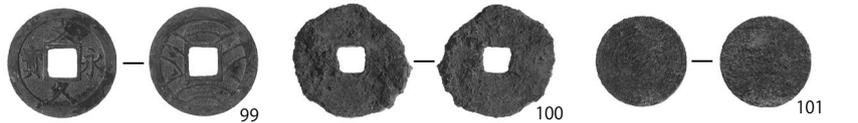
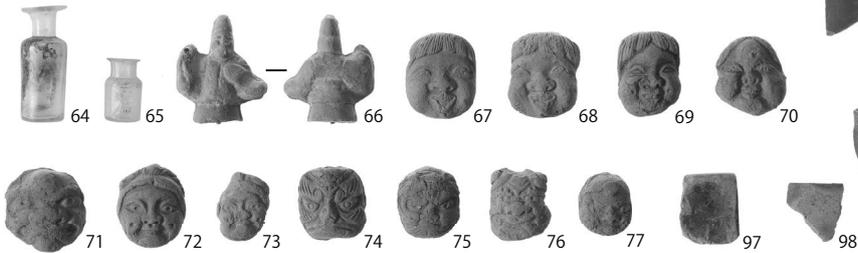
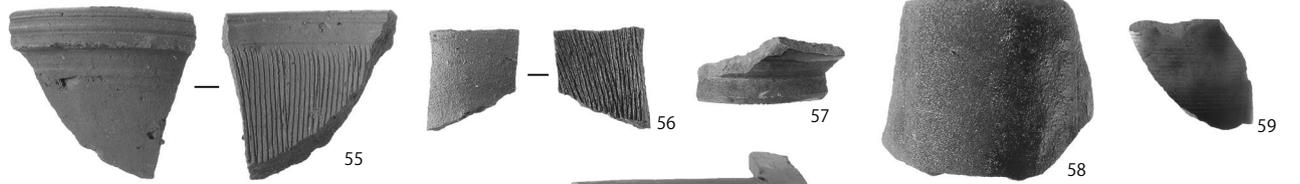
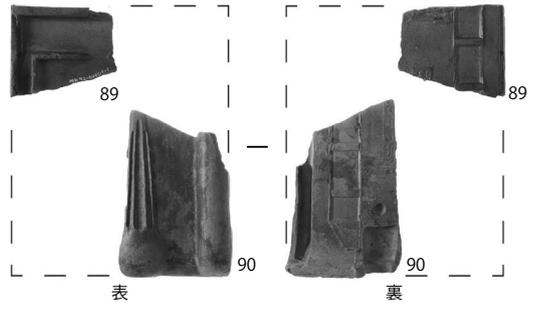
川崎遺跡第 52 地点出土遺物②



H73 号住居跡



川崎遺跡第 52 地点出土遺物③



川崎遺跡第 52 地点出土遺物